

2024 年 10 月

食料安全保障月報

(第 40 号)



令和 6 年 10 月 31 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2024年10月食料安全保障月報（第40号）

目次

概要編

I	2024年10月の主な動き	1
II	2024年10月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント	4
IV	2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント	4
V	今月の注目情報「中国の主要穀物等の需給動向及び10年後の展望」	5

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	1 1
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 2
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 3
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 5
5	食品小売価格の動向	1 9
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）	2 0
7	FAO食料価格指数	2 2

今月のコラム

	「2024年パリオリンピックによる食品産業への影響について」	2 3
--	--------------------------------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2024/25年度の生産量は前月から下方修正され53.7百万トンの見込み
	＜カナダ＞	2024/25年度の輸出量は前年度比0.3%増の25.4百万トンの見込み（AAFC）
	＜豪州＞	霜害によりNSW州、VIC州及びSA州で生産量が下方修正の可能性
	＜EU27＞	2024/25年度生産量は前月から下方修正され121.8百万トンの見込み（EC）
	＜ロシア＞	2024/25年度生産量は前月から下方修正され82.0百万トンの見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25年度生産量は前月から上方修正され22.9百万トンの見込み
	＜中国＞	2024年7月～8月の輸入量は前年同期比21.6%減
2	とうもろこし	9
	＜米国＞	単収の引上げにより、生産量は前月から0.5百万トン上方修正
	＜ブラジル＞	2024/25年度生産量は前年度から4.1%増加する見込み
	＜アルゼンチン＞	2024/25年度生産量は、前年度から2.0%増加する見込み

<ウクライナ> 2024/25 年度の生産量は、前年度より 19.4%減少する見込み
<中国> 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

3 コメ・・ 1 5

<タイ> 2024/25 年度の見込みは、前年度に比べ 0.5%増加する見込み
<米国> 2024/25 年度の見込みは、前年度に比べ 0.7%増加する見込み
<中国> 2024/25 年度の見込みは、前年度に比べ 1.0%増加する見込み
<インド> 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 40.0%増加する見込み
<ベトナム> 2023/24 年度の見込みは、前年度に比べ 0.5%減少する見込み

II 油糧種子

大豆・・ 2 1

<米国> 2024/25 年度の見込みは前年度から 10.1%増加する見込み
<ブラジル> 2024/25 年度の見込みは前年度から 10.5%増加する見込み
<カナダ> 2024/25 年度の見込みは前年度から 3.1%増加する見込み (AAFC)
<中国> 2024/25 年度の見込みは、前年度から 0.7%減少する見込み
<アルゼンチン> 2024/25 年度の見込みは、前年度から 6.0%増加する見込み

(参考1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について(2024/25 年度)・・・ 2 7

(参考2) 単位換算表・・ 2 7

(参考3) 各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8

【利用上の注意】

表紙写真：豪州ニューサウスウェールズ州中西部ポート・ケンブラポート・ゾーンのデュラム小麦畑。作物の大部分は霜害の被害を受けない地域に位置していたため霜害を免れ、順調に生育が進んでいる。(ニューサウスウェールズ州 2024 年 9 月 25 日)

(概要編)

I 2024年10月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の2024/25年度の作況について、北半球ではとうもろこしや大豆等の作物が収穫期を迎えている。なお、南半球ではとうもろこしや大豆等の作物が作付期を迎えている。

2024/25年度の状況について、品目別にみると、10月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、EU、ロシアで単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、豪州、米国、中国、インド、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加、カザフスタン、カナダで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022年3月に史上最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意（黒海穀物イニシアティブ）については2023年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EUの東欧経由での輸出の進捗も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル、南アフリカで単収・収穫面積ともに前年度より増加、中国で収穫面積が増加するものの、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少、ロシア、EUで単収が減少、米国で収穫面積が減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジル、米国、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、植物油、乳製品、砂糖等の価格の上昇により、8月の120.7から、9月（最新値）は124.4に上昇（参考：2023年9月121.9、2022年9月137.5、2021年9月129.3、2020年9月98.0）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近5カ年の平均値より約2割低い水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021年7月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2024年10月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 10 月需給報告によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は、収穫面積は増加するものの単収が減少することから、前年度より 0.4%減少し 2,290 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 19%減少し 2,620 万トンとなる見込み。2024/25 年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より 14%減少し 1,600 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より 22%減少し 2,300 万トンとなる見込み。

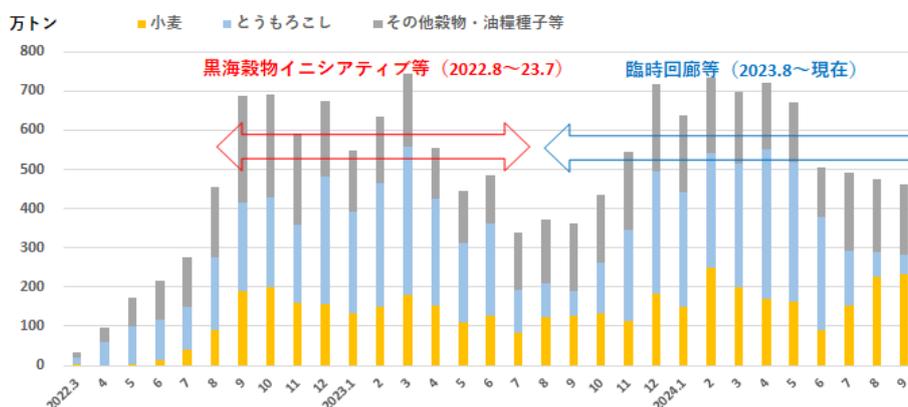
ウクライナ農業政策食料省によれば、10 月 10 日現在、2024/25 年度の小麦の収穫作業は終了し、とうもろこしの収穫進捗率は 48%である。また、10 月 14 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 75%である。ウクライナ気象センターによれば、9 月末現在、冬小麦作付済の圃場では出芽が始まっているが、大部分の地域で土壌水分不足により作付後長期にわたり発芽がみられないケースが散見される。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ピブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年8月～23年7月）は、穀物・油糧種子等6,846万トン（うち、小麦1,728万トン、とうもろこし2,949万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2024年9月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 インド：収穫面積の増加によりコメの生産量が史上最高へ

USDAによれば、2024/25年度のインドのコメ生産量は史上最高の1億4,200万精米トンと、前月予測から3%上方修正され、前年度から3%増加し、過去5年平均を10%上回る見込み。収穫面積は史上最高の4,900万ヘクタールと、前年度より2%増加し、過去5年平均を6%上回っている。単収も史上最高の4.35 ㌧/ヘクタールと、前年度より1%増加し、過去5年平均を4%上回っている。

史上最高の生産量は、生産者が綿花より単収が高くリスクが少ないコメに作付けをシフトさせたことによる作付面積の増加と生育後期に生長に適した天候に恵まれたことによる。インド農業省によれば、2024年9月20日現在、カリフ米（雨季米）の作付面積は4,135万ヘクタールと、前年度から2%増加し、過去5年平均を3%近く上回ると報告している。

2 インド：コメの輸出禁止を一部撤廃

USDAによれば、インド政府は2024年9月28日、非バスマティ米の輸出禁止措置を撤廃するとともに、最低輸出価格を490ドル/トンを導入した。加えてバスマティ米の最低輸出価格を撤廃し、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出税を20%から10%に引き下げた。2025年は、世界最大のコメ輸出国であるインドが輸出を拡大し、コメの国際価格が下落すると見込まれる。ただし、碎米の輸出禁止は引き続き実施されるため、インドのコメ輸出量は史上最高を記録した2021/22年度の実績を下回ると見込まれる。更に10月23日、インド政府は非バスマティ米の最低輸出価格を撤廃した。

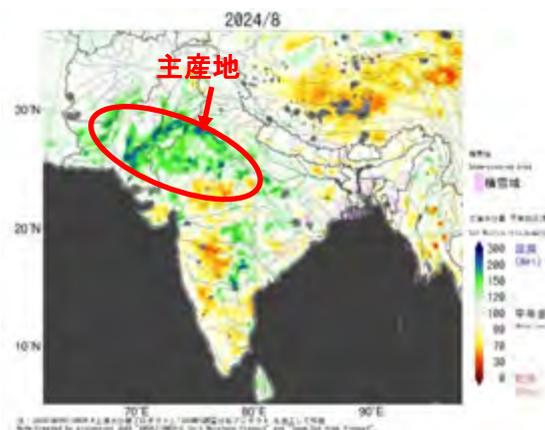
3 ブラジル：小麦は収穫面積減少も単収の回復により生産量が増加

USDAによれば、2024/25年度の小麦の生産量は900万トンと、前月予測から5%下方修正されたものの、前年度から11%増加し、過去5年平均を19%上回る見込み。収穫面積は300万ヘクタールと、前月予測及び前年度から14%減少したものの、5年平均を10%上回っている。単収は3.00トン/ヘクタールと前月予測から11%上方修正され、前年度から29%増加、過去5年平均を9%上回っている。

ブラジル最大の小麦生産州であるリオ・グランデ・ド・スール州では、収穫期の降雨過多により単収が減少した前年度に比べ、今シーズンは平年並みの天候となり、リオ・グランデ・ド・スール州政府機関のEMATER/RSによれば、州全体の単収は前年度比77%増、生産量は4.1百万トンとなる見込み。

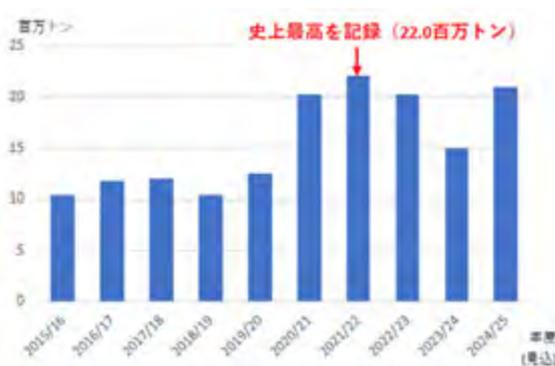
ブラジル第2位の小麦生産州であるパラナ州では、乾燥と局地的な霜害により単収が前年度比12%減、生産量は前年度比29%減の2.6百万トンとなる見込み。

図1：インドの土壤水分量(平年対差)
(2024.8)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMA1）

図2：インドのコメの輸出量の推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

II 2024年10月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、9月末、210ドル/トン台半ばで推移。10月に入り、EU、ロシア及びウクライナの作柄懸念や中東の緊張の高まり等を受けて220ドル/トン台半ばまで上昇したものの、米国農務省需給報告において世界の期末在庫量が引上げられたことや米国及びロシアの降雨予報を受けて下落し、10月中旬現在、210ドル/トン前半で推移。

とうもろこしは、9月末、160ドル/トン台後半で推移。10月に入り、原油や小麦への連れ高等で170ドル/トン台前半まで上昇したものの、ブラジル降雨予報等を受けて下落し、10月中旬現在、150ドル/トン台後半で推移。

コメは、9月末、580ドル/トン台後半で推移。10月に入り、インド政府による輸出規制の緩和及び撤廃によるコメの供給量増加予測を受けて下落し、10月中旬現在、540ドル/トン台で推移。

大豆は、9月末、380ドル/トン台後半で推移。10月に入り、ブラジルでの降雨予報及び米国産の順調な収穫進捗等を受けて下落し、10月中旬現在、350ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より0.4%増の28.25億トン。消費量は、前年度より1.0%増の28.41億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り27.2%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.25億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.41億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで増加も、小麦、とうもろこしで減少し、穀物全体で減少し、5.03億トンの見込み。

期末在庫量は、7.72億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は10月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

IV 2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.87億トン。消費量は前年度を上回り6.63億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る22.8%となる見込み。

(注：数値は10月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」等による)

V 今月の注目情報: 中国の主要穀物等の需給動向及び10年後の展望

2024年4月20、21日、中国農業農村部は中国農業展望大会を開催し、今後10年間の農業を展望する「中国農業展望報告（2024-2033）」を公表した。同報告から、中国の主要穀物等について、2024/25年度の需給動向及び10年後の展望をまとめた。

注：文中の「2024/25年度」等は市場年度で、中国のとうもろこし及び大豆は2024年10月から2025年9月、小麦及びコメは2024年7月から2025年6月。（品目別需給編P.27参照）。

1 主要穀物及び大豆の生産動向・展望

(1) 小麦

USDAによれば、2024/25年度の小麦の生産量は1億4,000万トンと前年度から2.5%増加し史上最高となる見込み。収穫面積が2,370万ヘクタールと前年度から0.3%増加し、単収も5.91トン/ヘクタールと前年度から2.2%増加することによる。

中国共産党国務院（内閣に相当）は2024年2月3日、中国の農業分野における資源配分と開発目標について幅広い指針を示す2024年中央一号文件を公表した。食料安全保障の確保は引き続き中国の最優先課題であり、主要穀物・油糧作物（小麦、コメ、とうもろこし、大豆）については、作付面積を維持しつつ単収向上に重点を置くとしている。

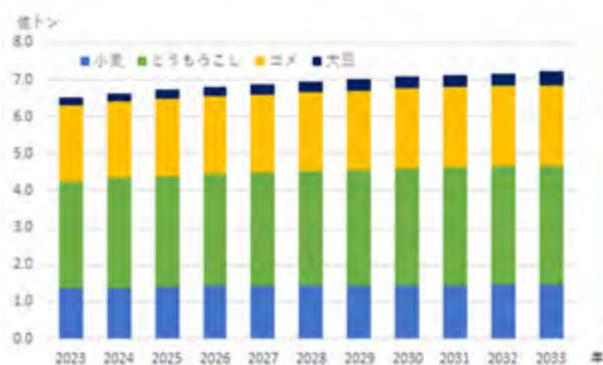
「中国農業展望報告（2024～2033）」（2024.4）（以下「展望報告」という。）によれば、作付面積の維持と単収の増加に伴い、2024年の生産量は1億3,860万トンと前年（1億3,659万トン）から1.5%増加する見込み。2028年には1億4,459万トン、2033年には1億4,626万トンと2023年からの10年間で7.1%増加すると予測される。

(2) とうもろこし

USDAによれば、2024/25年度のとうもろこしの生産量は2億9,200万トンと、前年度から1.1%増加し史上最高となる見込み。収穫面積が4,470万ヘクタールと前年度から1.1%増加することによる。

展望報告によれば、作付面積の維持と単収の増加に伴い、2024年の生産量は2億9,556万トンと前年（2億8,884万トン）から2.3%増加する見込み。2028年には3億920万トン、2033年

図1 中国の主要穀物・大豆生産量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図2 中国の小麦の生産量、作付面積、単収の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図3 中国のとうもろこしの生産量、作付面積、単収の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

には3億 2,254 万トンと 2023 年からの 10 年間で 11.7%増加すると予測される。

(3) コメ

USDA によれば、2024/25 年度のコメの生産量は 1 億 4,600 万精米トンと前年度から 1.0%増加する見込み。収穫面積が 2,900 万ヘクタールと前年度から 0.2%増加し、単収も 7.19 粍トン/ヘクタールと前年度から 0.7%増加することによる。

展望報告によれば、作付面積の維持と単収の増加に伴い、2024 年の生産量は 1 億 4,535 万精米トン（以下「トン」という。）と前年（1 億 4,462 万トン）から 0.5%増加する見込み。2028 年には 1 億 4,865 万トン、2033 年には 1 億 5,183 万トンと 2023 年からの 10 年間で 5.0%増加すると予測される。

(4) 大豆

USDA によれば、2024/25 年度の大豆の生産量は 2,070 万トンと前年度から 0.7%減少する見込み。収穫面積は 1,050 万ヘクタールと前年度から 0.3%増加し史上最高となるものの、単収が 1.97 トン/ヘクタールと前年度から 1.0%減少することによる。

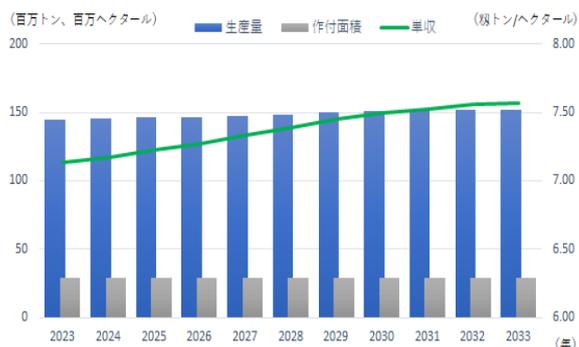
展望報告によれば、2024 年の一号文件にて「大豆の作付面積を拡大し、高単収品種等の開発を支援する。」と大豆の増産方針を打ち出しており、2024 年の生産量は、単収の増加により 2,159 万トンと前年（2,084 万トン）から 3.6%増加する見込み。2028 年には 2,949 万トン、2033 年には 3,568 万トンと 2023 年からの 10 年間で 71.2%増加すると予測される。

2 主要穀物及び大豆の消費動向・展望

(1) 小麦

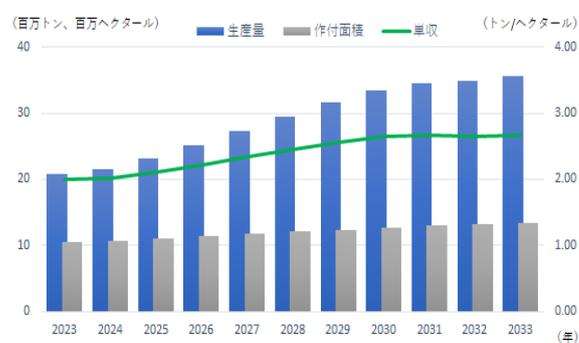
展望報告によれば、2024 年の小麦消費量は 1 億 3,709 万トンと前年（1 億 4,789 万トン）から 7.3%減少する見込み。2028 年には 1 億 3,917 万トン、2033 年には 1 億 4,135 万トンと 2023 年からの 10 年間で 4.4%減少すると予測される。このうち、工業用消費は継続的に増加し、食用消費及び飼料用消費は徐々に減少すると予測。なお、工業用消費には醸造、工業用アルコール、デンプン、変性デンプン、グルテン等が含まれ、中国の食品産業の発展に伴い、工業用需要は益々旺盛になると予測される。

図 4 中国のコメの生産量、作付面積、単収の実績及び予測



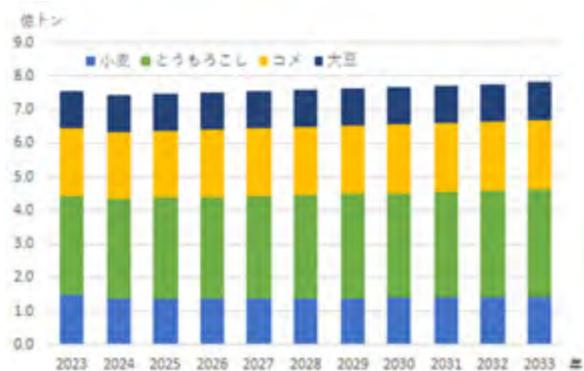
出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図 5 中国の大豆の生産量、作付面積、単収の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図 6 中国の主要穀物・大豆消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

2023 年の小麦の国内消費量に対する生産量の割合は 92%だが、2033 年には 103%となると予測される。

小麦需要の 6 割以上を占める食用消費については、2022 年に中国の人口増加がピークに達し、その後減少段階に入ったことに加え、高齢化により、今後、小麦を含む食用穀物の消費量は徐々に減少すると予測される。2024 年の食用小麦の消費量は 9,086 万トンと、前年（9,100 万トン）から 0.2%減少する見込み。2028 年には 9,034 万トン、2033 年には 8,968 万トンと 2023 年からの 10 年間で 1.5%減少すると予測される。

(2) とうもろこし

展望報告によれば、2024 年のとうもろこし消費量は 2 億 9,744 万トンと前年（2 億 9,590 万トン）から 0.5%増加する見込み。2028 年には 3 億 753 万トン、2033 年には 3 億 2,101 万トンと 2023 年からの 10 年間で 8.5%増加すると予測される。このうち、飼料用消費は小幅増加、工業用消費は継続的に増加、食用消費は継続的に増加すると予測。

2023 年のとうもろこしの国内消費量に対する生産量の割合は 98%だが、2033 年には 100%となると予測される。

とうもろこし消費の 6 割以上を占める飼料用消費については、2024 年の豚の飼育頭数がやや減少することから豚用飼料の消費量がわずかに減少し、2024 年の飼料用消費量は 1 億 9,200 万トンと前年（1 億 9,300 万トン）から 0.5%減少する見込み。中長期的には継続的に増加し、2028 年には 1 億 9,400 万トン、2033 年には 1 億 9,637 万トンと 2023 年からの 10 年間で 1.7%増加すると予測される。

(3) コメ

展望報告によれば、2024 年のコメ消費量は 1 億 3,955 万トンと前年（1 億 4,050 万トン）から 0.7%減少する見込み。2028 年には 1 億 4,048 万トン、2033 年には 1 億 4,437 万トンと 2023 年からの 10 年間で 2.8%増加すると予測される。このうち、食用消費は徐々に減少、米粉、食酢などの工業用消費は継続的に増加、飼料用消費も増加すると予測。

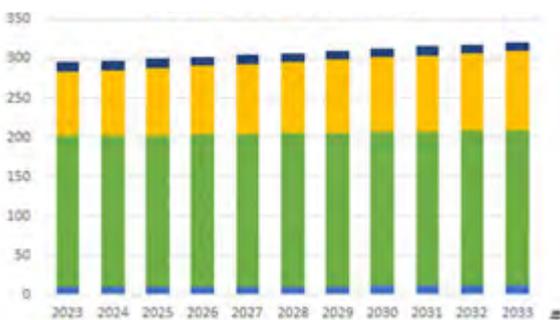
2023 年のコメの国内消費量に対する生産量の割合は 103%だが、2033 年には 105%となると予測される。

図 7 中国の小麦の用途別消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図 8 中国のとうもろこしの用途別消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図 9 中国のコメの用途別消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

測される。

コメ消費の7割以上を占める食用消費については、生活水準の向上、消費構造の多様化、高齢化の進行などの要因により、一人当たりの消費量が徐々に減少し、さらに総人口が減少傾向にあることから継続的に減少すると予測される。2024年の食用消費量は1億815万トンと前年（1億892万トン）から0.7%減少する見込み。2028年には1億713万トン、2033年には1億626万トンと2023年からの10年間で2.4%減少すると予測される。

（4）大豆

展望報告によれば、2024年の大豆の消費量は1億1,061万トンと前年（1億1,076万トン）から0.1%減少するものの、2028年には1億1,201万トン、2033年には1億1,329万トンと2023年からの10年間で2.3%増加すると予測される。食用消費の増加と飼料用消費の高水準での維持を受け、継続的に増加すると予測。

2023年の大豆の国内消費量に対する生産量の割合は19%の見込みだが、2033年には31%となると予測される。

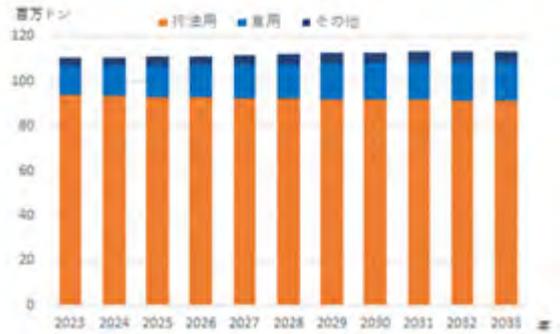
大豆消費の8割以上を占める搾油用消費については、総人口の減少や高齢化の影響を受け、豚肉消費が減少傾向となることや、政府による養豚飼養頭数の継続的な調整等により、養豚用の飼料用消費は継続的に減少すると見込まれることから、2024年の搾油用消費量は9,319万トンと前年（9,380万トン）から0.7%減少する見込み。2028年には9,217万トン、2033年には9,130万トンと2023年からの10年間で2.7%減少すると予測される。なお、将来的に国民の健康意識が高まるにつれ、食事における大豆製品の割合が継続的に上昇し、食用消費は継続的に増加すると予測される。

3 主要穀物及び大豆の輸入動向・展望

（1）小麦

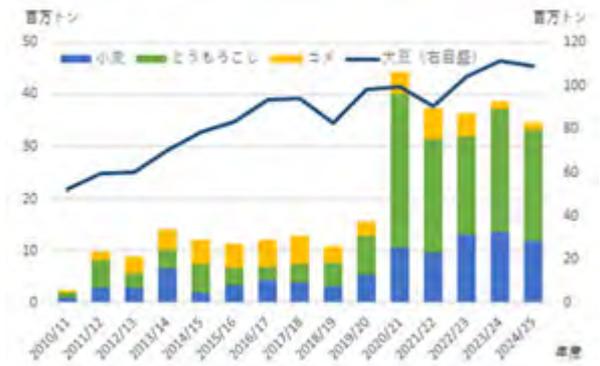
展望報告によれば、中国の小麦輸入の大部分は、特定の品種の需要を満たすために使用され、国内の高品質小麦の需給ギャップを埋めるため、輸入量は300万～400万トンの範囲で維持されてきた。2020年から2023年にかけて、国内の飼料用小麦の消費増及び輸入小麦の価格優位性により小麦の輸入量は継続的に増加し、それぞれ838万トン、977万トン、996万トン、1210

図10 中国の大豆の用途別消費量の実績及び予測



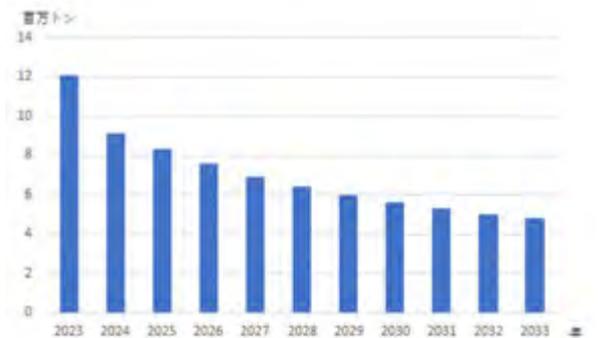
出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図11 中国の主要穀物・大豆の輸入量の推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

図12 中国の小麦輸入量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

万トンと3年連続で関税割当数量（963.6万トン）を超過し、世界第1位の小麦輸入国となっている。しかし、小麦の飼料代替需要の減少や、国内の高品質小麦供給量の増加に伴い、小麦輸入量は減少傾向となると予想される。2024年の小麦輸入量は914万トンと前年（1,210万トン）から24.5%減少する見込み。2028年には643万トン、2033年には485万トンと2023年からの10年間で59.9%減少すると予測される。

（2）とうもろこし

USDAによれば、中国のとうもろこし輸入量は、アフリカ豚熱の影響が落ち着き、豚肉生産が回復した2020/21年度以降急激に増加し、直近5年間は2,000万トン前後で推移しており（図11）、世界第1位のとうもろこし輸入国となっている。中国は従来は主に米国及びウクライナから輸入してきたが、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻を受け、同年11月からブラジルからの輸入を開始した。

中国海関統計によれば、2023年のブラジルからのとうもろこし輸入量は1,281万トンと米国からの輸入量714万トンを大きく上回り、第1位の輸入先国となっている。

展望報告によれば、2023年の国産とうもろこしの生産量は2億8,884万トンと、前年から4.8%増加したことから、2024年のとうもろこし輸入量は1,700万トンと前年（2,713万トン）から37.3%減少する見込み。2028年には710万トン、2033年には680万トンと2023年からの10年間で74.9%減少すると予測される。

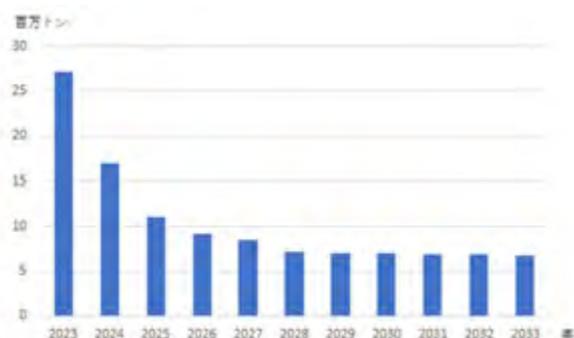
（3）コメ

展望報告によれば、中国のコメ輸入の大部分は、特定の品種の需要を満たすためのものであり、輸入量は300万トン前後で比較的安定して推移すると予測される。2024年のコメ輸入量は280万トンと前年（263万トン）から6.4%増加する見込み。2028年には307万トン、2033年には325万トンと2023年からの10年間で23.6%増加すると予測される。

（4）大豆

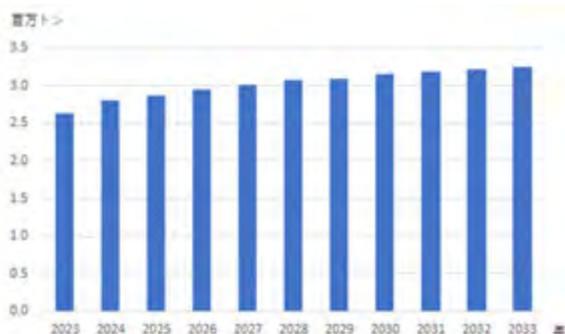
USDAによれば、中国の大豆の輸入量は、2000年以降概ね増加傾向で推移している。2018/19年度はアフリカ豚熱発生の影響、2021/22年度は新型コロナによる景気低迷により一時的に輸入量が減少したが、その後、豚肉生産の回復に伴い、直近5年間の大豆輸入量は1億トン前後で推移しており、世界第1位の大豆輸入国となっている。

図13 中国のとうもろこし輸入量の実績及び予測



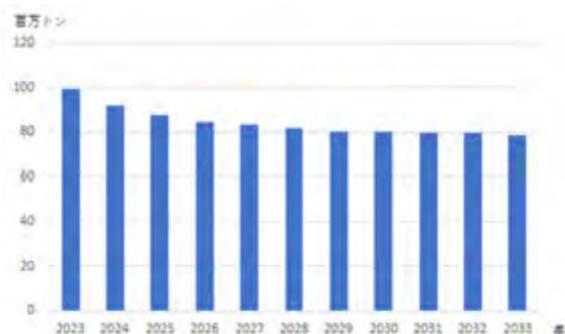
出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図14 中国のコメ輸入量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

図15 中国の大豆輸入量の実績及び予測



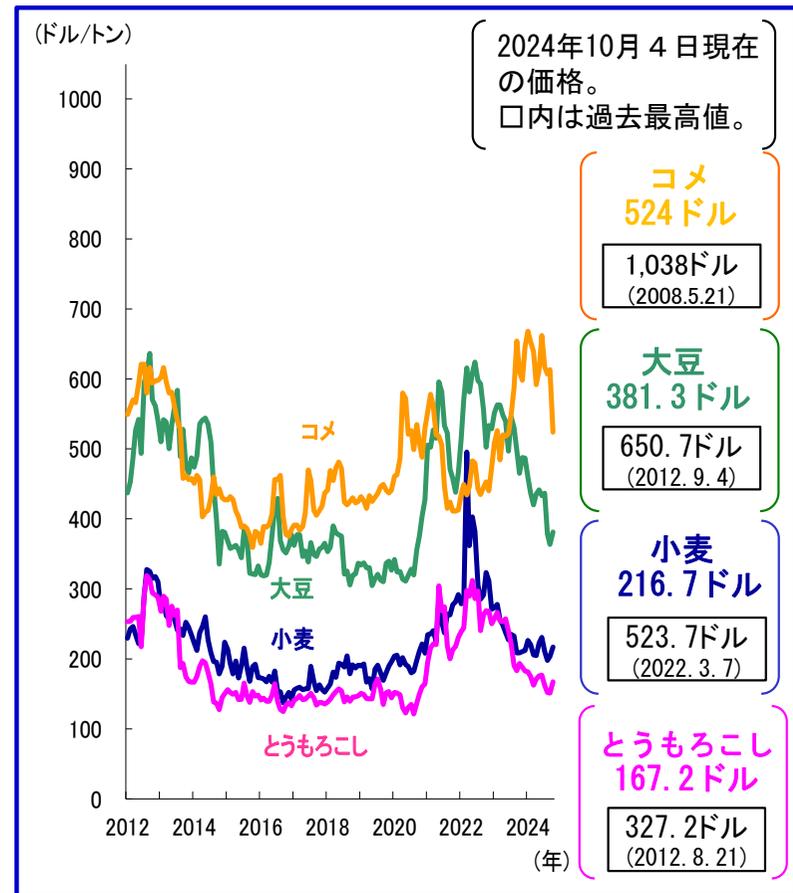
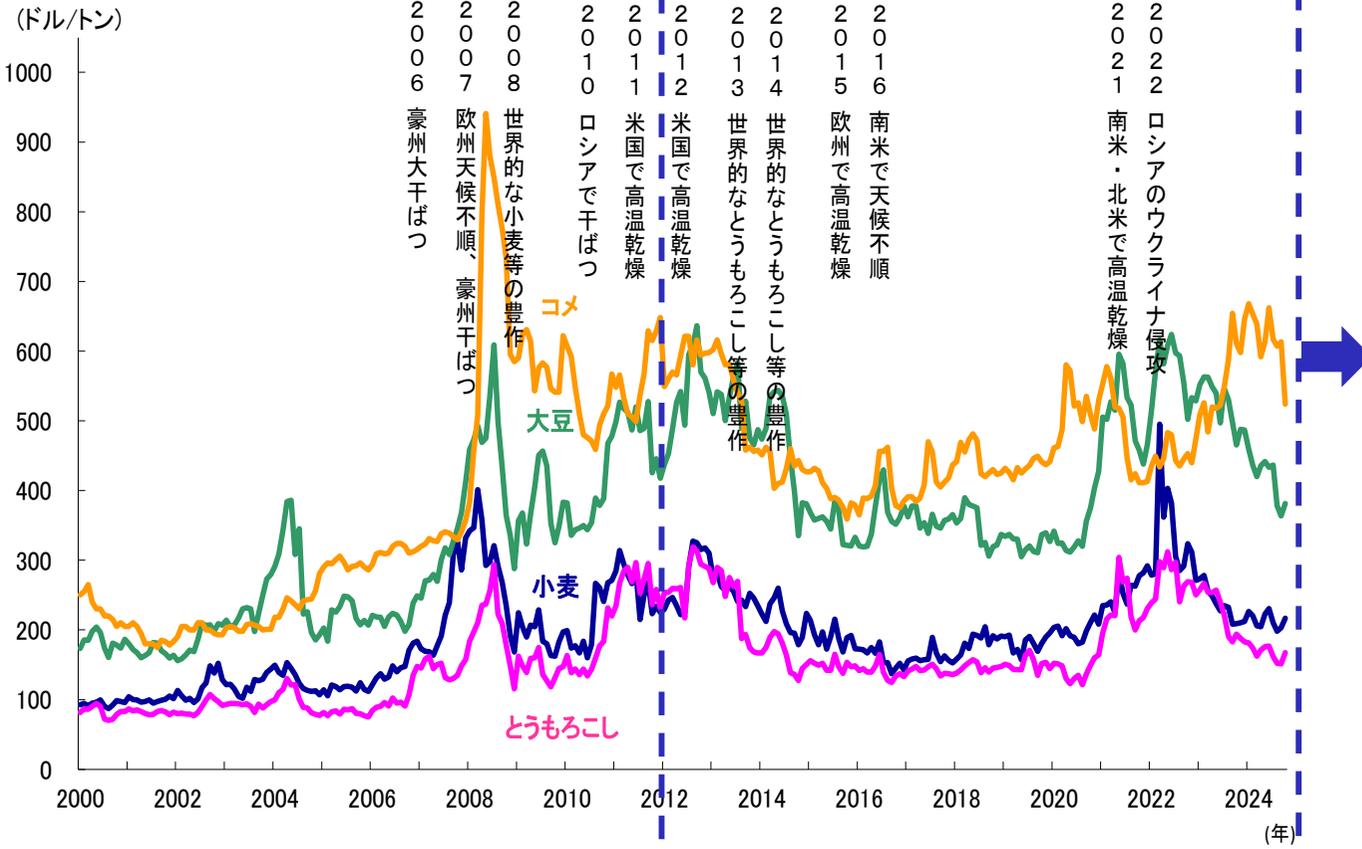
出典：中国農業展望報告（2024～2033）をもとに農林水産省で作成

展望報告によれば、大豆輸入は依然として高水準を維持するものの、国内の搾油用消費の継続的な減少と国産大豆の作付面積及び単収の継続的な増加による生産量の増加により、輸入量は減少傾向となると予測される。2024年の大豆輸入量は9,172万トンと前年(9,941万トン)から7.7%減少する見込み。2028年には8,173万トン、2033年には7,869万トンと2023年からの10年間で20.8%減少すると予測される。

資料 1 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの一部輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向

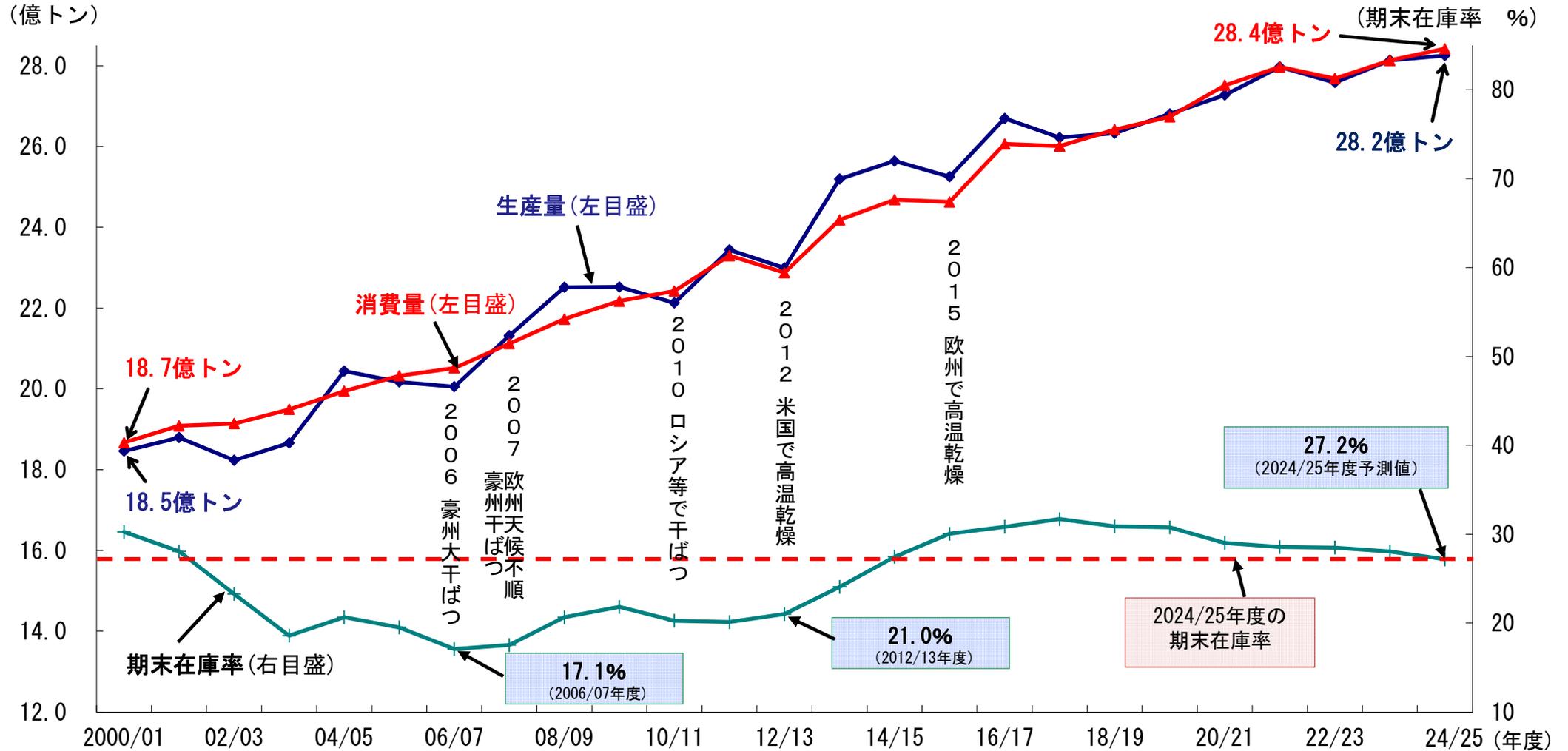


注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.2%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

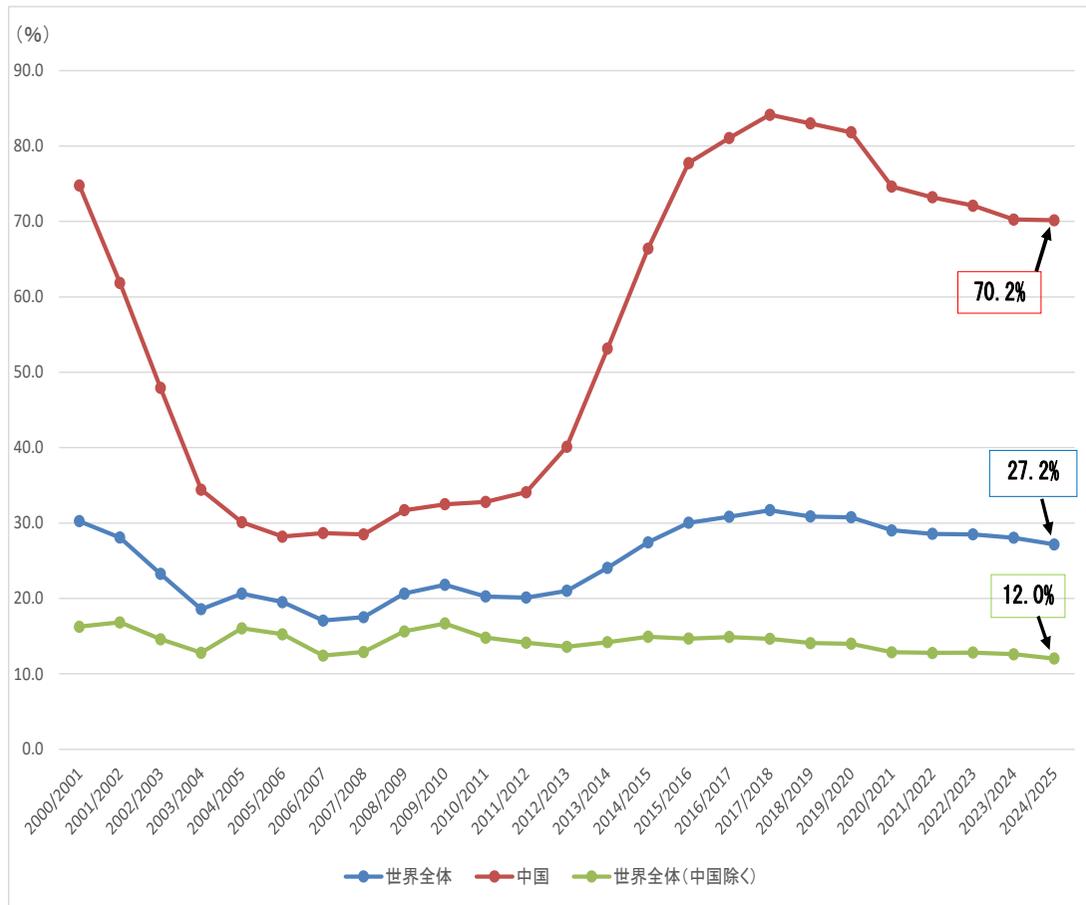


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 2024)、「PS&D」

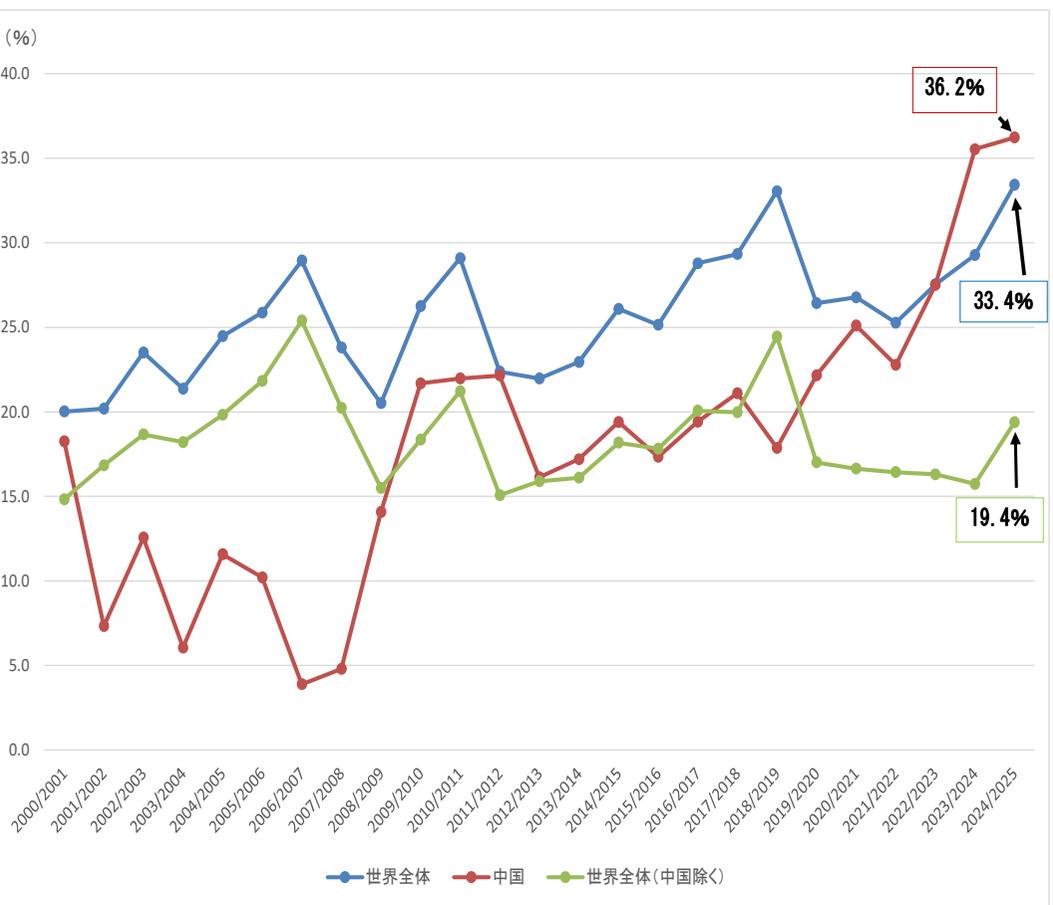
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(October 11, 2024)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

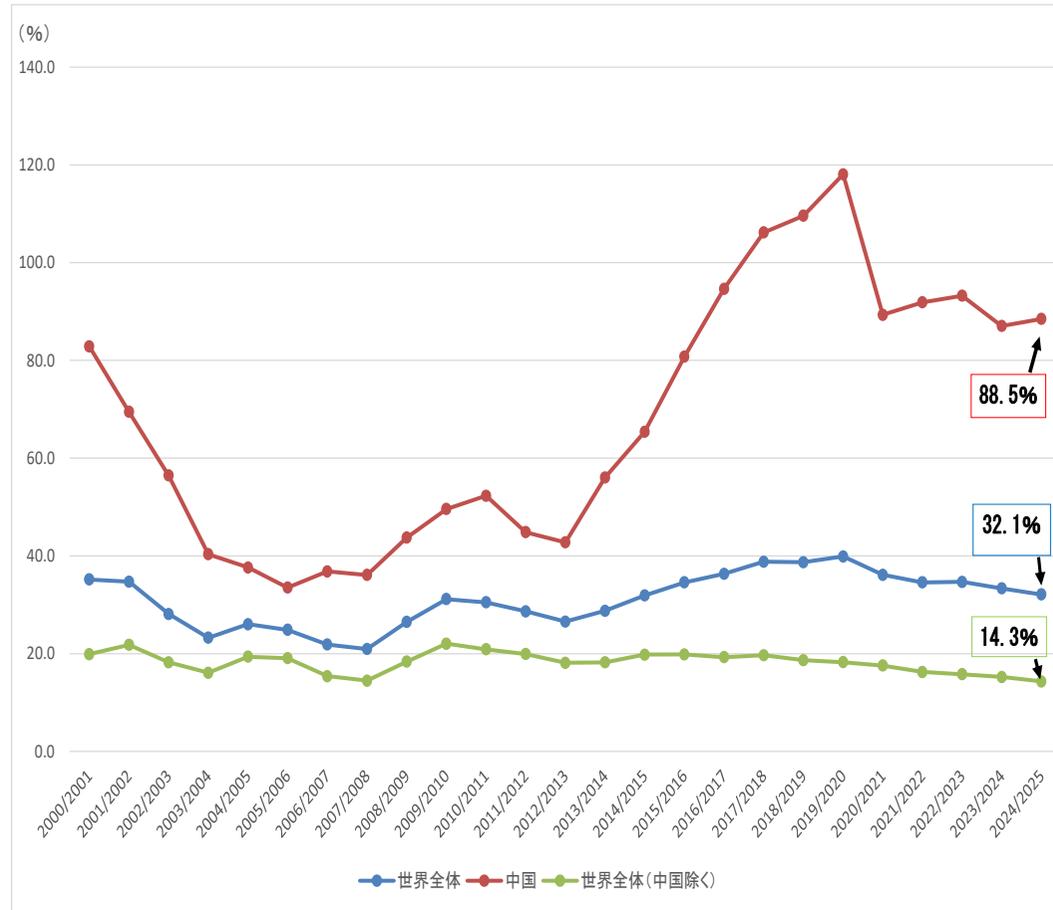
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

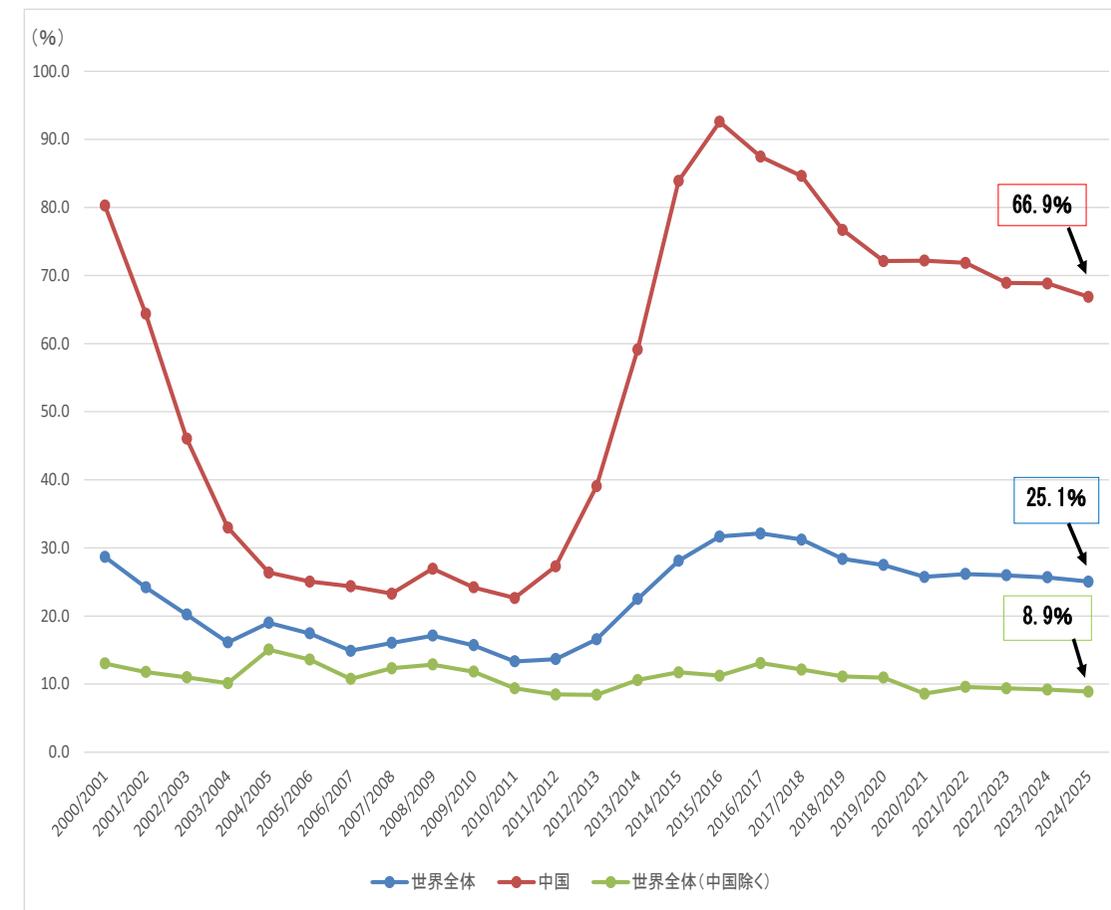
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(October 11, 2024)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

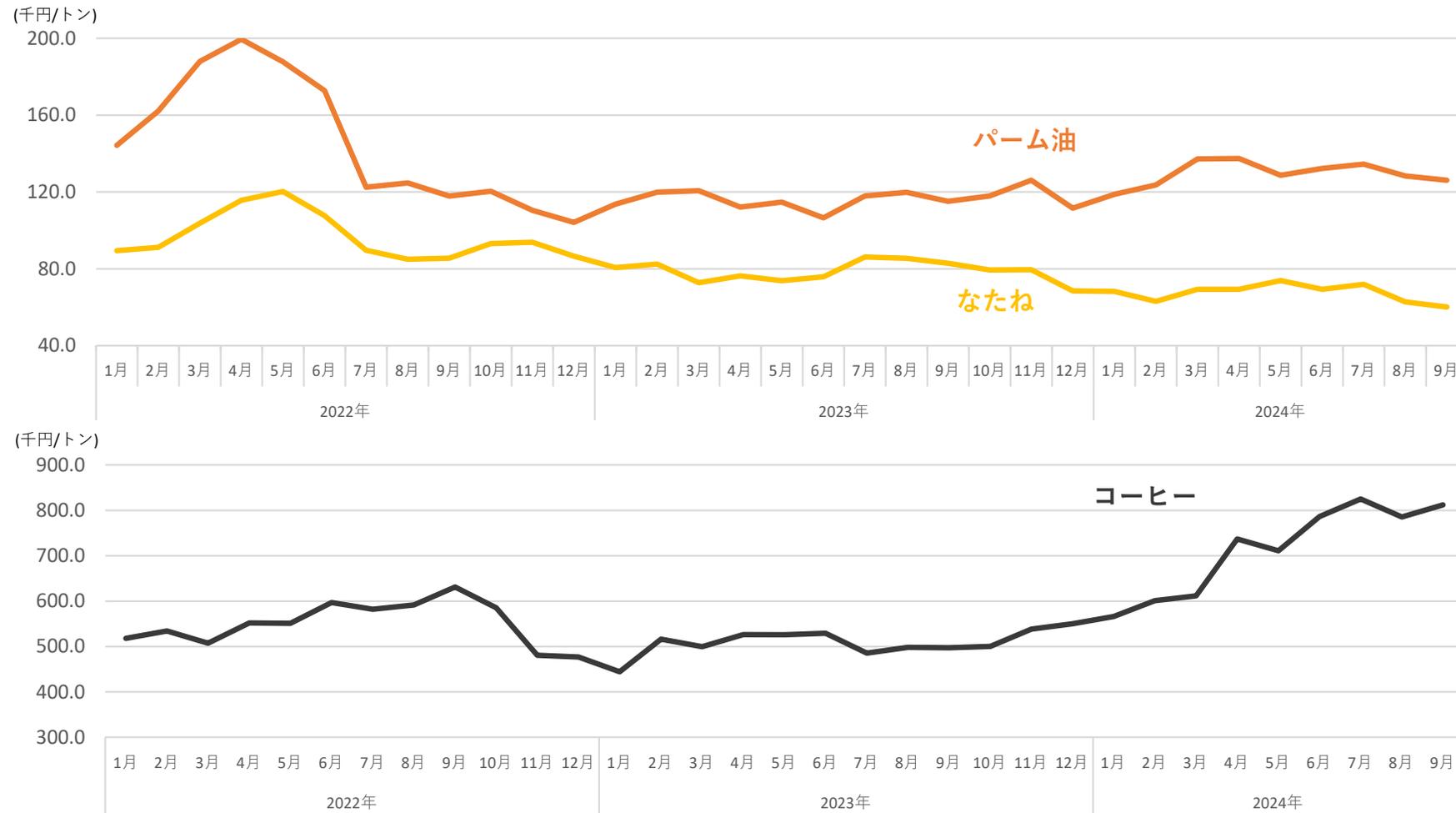
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料4-1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油の需要の面では、世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などにより市場価格上昇の要因となっている。
- なたね、パーム油の供給の面では、なたねについては、2021年に主産地であるカナダで減産があったが、2022年以降は回復基調から平年並みの収量に近づいた。パーム油については、インドネシアの輸出禁止措置（2022年5月23日解除）があったが、マレーシアの生産量の増加によって供給不足の懸念が払拭された。いずれも2022年の高値からは落ち着きが見られるものの、依然高止まりしている。
- コーヒーについて、2021年以降、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降は再び市場価格が高騰している。



2024年10月21日現在
□内は2022年1月以降の最高値。

パーム油
126.1千円/トン
199.5千円/トン (2022.4)

なたね
60.2千円/トン
120.3千円/トン (2022.5)

コーヒー
812.1千円/トン
825.0千円/トン (2024.7)

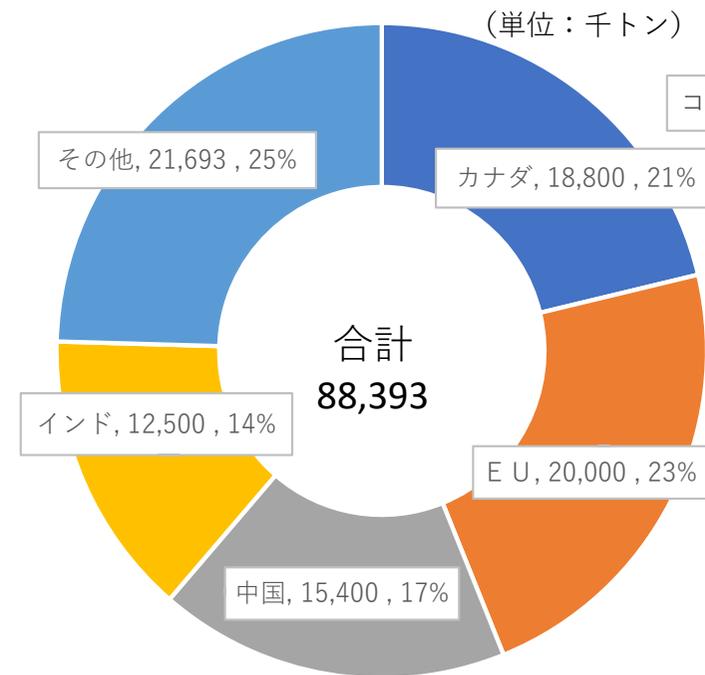
※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況

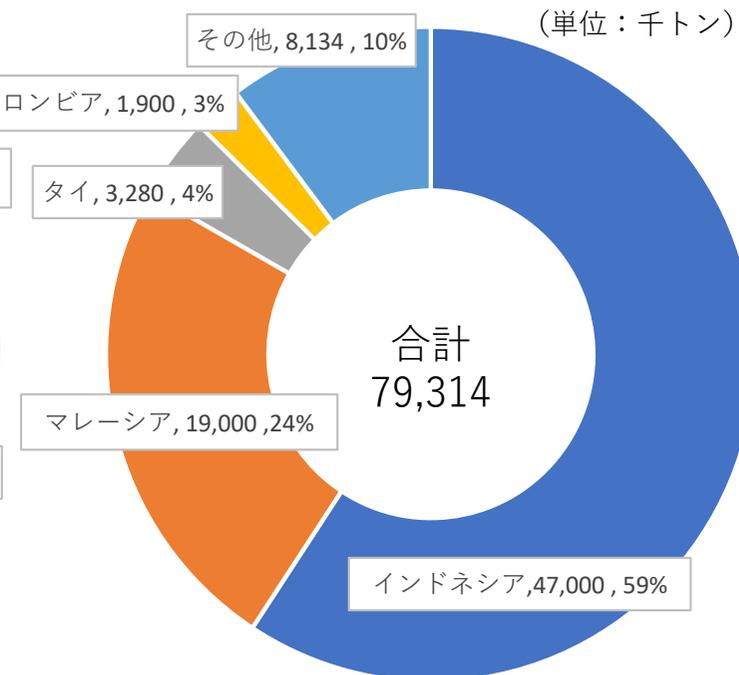
なたね生産量（2023/24）

（単位：千トン）



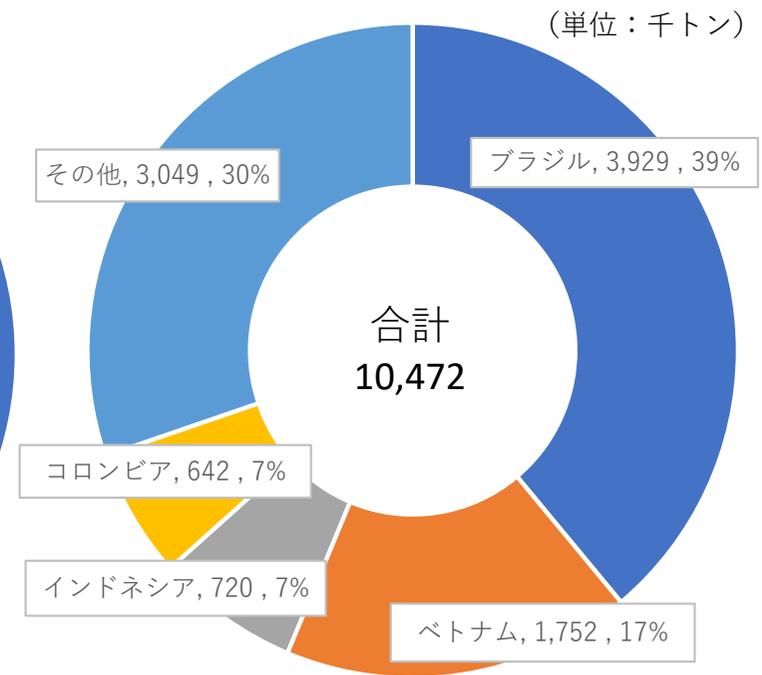
パーム油生産量（2023/24）

（単位：千トン）



コーヒー生産量（2022/23）

（単位：千トン）



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年6月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年6月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年6月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%
オーストラリア	983	48.6%
その他	0	0.0%
合計	2,022	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	574	85.6%
インドネシア	96	14.4%
その他	0	0.1%
合計	671	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	124	35.0%
ベトナム	99	27.9%
コロンビア	34	9.6%
その他	98	27.6%
合計	356	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料 4 - 4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1			
前月比	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4			
前年同月比	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3			

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

注2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年9月の国内の加工食品の消費者物価指数は114.8～153.3(前年同月比で-8.5%～7.7%)の範囲内。

消費者物価指数(総務省)
(令和6年4月～令和6年9月)

品目	R2	R3	R4	R5	R6						上昇率 (前年 同月比)
	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
食パン	100.0	99.2	110.3	118.7	121.9	121.7	122.0	122.4	122.6	122.3	-0.2%
即席めん	100.0	100.1	107.6	119.7	123.5	124.6	121.4	122.9	124.3	120.2	-2.6%
豆腐	100.0	101.3	105.3	114.6	118.0	117.9	117.9	118.1	117.9	118.8	2.1%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	106.9	144.4	160.2	148.0	147.8	149.0	146.8	148.1	144.3	-8.5%
みそ	100.0	99.3	101.3	108.1	113.3	113.2	113.8	113.4	113.7	114.8	5.5%
マヨネーズ	100.0	105.6	125.6	149.5	153.7	153.4	152.3	152.7	151.8	153.3	-0.9%
チーズ	100.0	98.7	107.5	131.1	135.3	130.5	132.6	132.3	135.4	133.4	-1.2%
バター	100.0	99.9	99.2	108.6	120.2	120.5	120.0	119.6	120.1	120.0	7.7%
生鮮食品を 除く食料	100.0	100.2	104.1	112.6	115.5	115.7	115.9	116.3	117.1	117.8	3.1%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。
資料: 総務省消費者物価指数

【参考】
食品価格動向調査(農林水産省)
(令和6年4月～令和6年10月)

品目	R2	R3	R4	R5	R6						上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月			10月
食パン	100.0	98.6	107.8	114.5	115.0	117.8	118.9	118.2	118.6	118.9	118.2	-0.6%	0.2%
即席めん	100.0	99.2	105.6	117.5	117.3	119.8	114.9	121.0	120.4	119.1	115.5	-3.0%	-5.5%
豆腐	100.0	100.6	103.7	113.0	118.9	116.7	115.0	115.9	115.9	116.7	118.5	1.5%	3.4%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	104.1	140.7	159.4	145.1	145.1	144.1	142.9	145.1	143.5	144.5	0.7%	-7.8%
みそ	100.0	99.2	100.1	105.9	106.7	108.1	109.2	110.0	109.8	110.2	110.0	-0.2%	0.5%
マヨネーズ	100.0	102.2	117.7	139.8	140.3	138.6	141.3	140.3	140.6	141.3	140.6	-0.5%	-2.9%
チーズ	100.0	98.1	105.7	126.5	123.8	121.3	127.8	129.3	129.3	128.8	128.8	0.0%	-1.2%
バター	100.0	99.8	99.1	108.0	119.7	119.4	119.7	119.7	119.7	118.8	119.4	0.5%	7.2%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。
注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。
注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2024年11月号（10月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）24年7月の牛肉輸出量はかなりの程度増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003458.html

（豪州）引き続き牛肉輸出は堅調、中東地域へのさらなる輸出拡大を視野

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003459.html

（ウルグアイ）24年の牛肉輸出先は中国向け中心から米国向けなどへ多様化が進展

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003460.html

◆豚肉

（カナダ）24年7月の豚肉輸出量はかなりの程度増加、日本向けがけん引

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003461.html

（EU）24年上半期の豚肉生産量はわずかに増加、豚枝肉卸売価格は続落

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003462.html

資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

◆牛乳・乳製品

（米国）8月の乳価は堅調、7月の主要乳製品の輸出量は前年同月を大きく上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003464.html

（EU）24年9月の主要乳製品価格、いずれも前年同期を上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003465.html

（NZ）24/25年度の生産者支払乳価は2カ月連続で引き上げへ

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003466.html

（中国）乳価は引き続き下落、主要乳製品輸入量はバターを除き減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003467.html

◆飼料穀物

（世界：トウモロコシ）生産量、期末在庫はともに微減するも引き続き高水準の見通し

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003468.html

（世界：大豆）大きな変化は見られず、大豆の期末在庫は大幅増の見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003469.html

（米国）単収の上方修正で生産量も増加、輸出量も高水準を維持

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003470.html

（ブラジル）23/24年度トウモロコシおよび大豆生産量、前年度に次ぐ過去2番目の大きさを予測

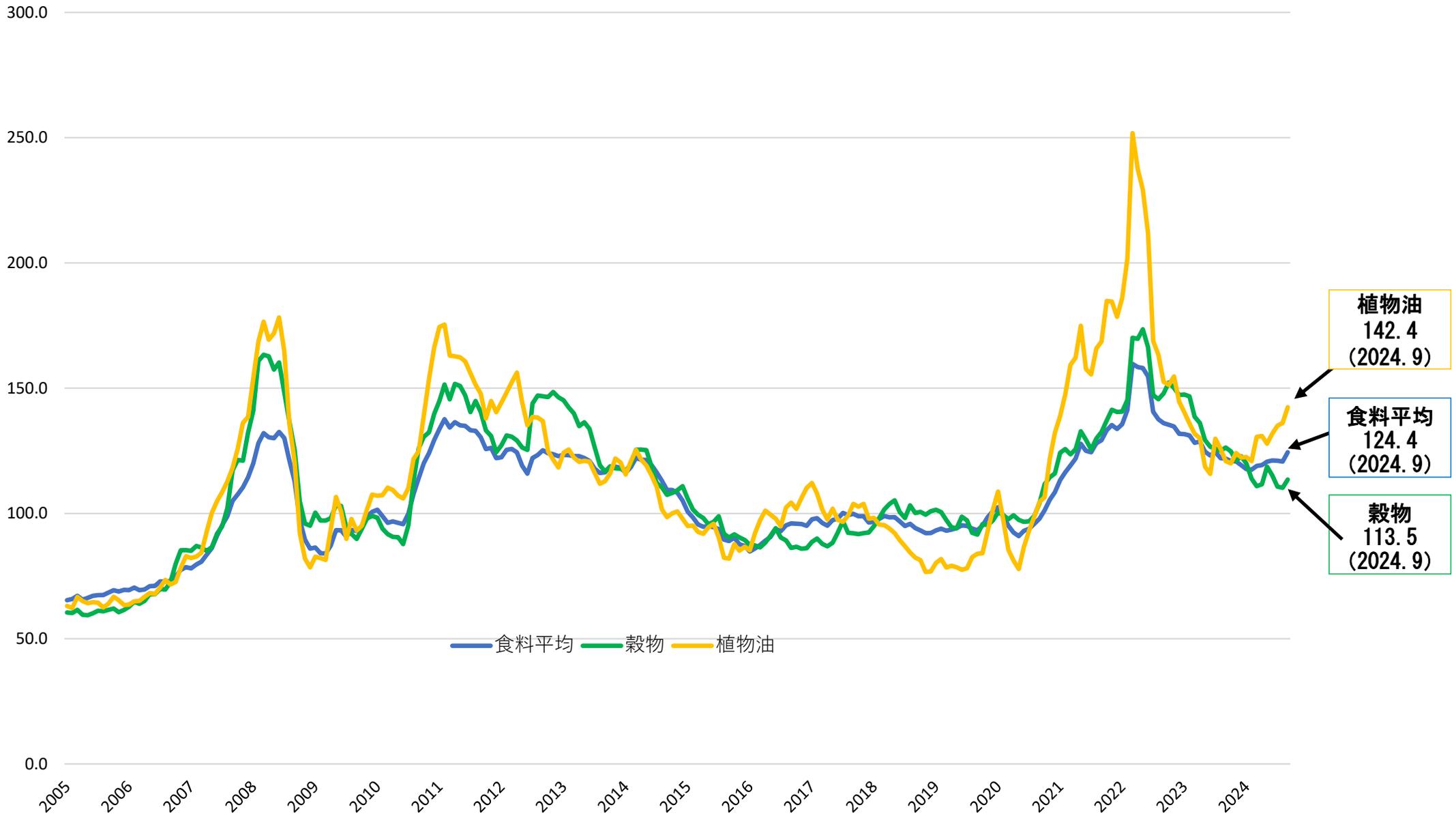
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003471.html

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003472.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.9)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

【今月のコラム】

2024年パリオリンピックによる食品産業への影響について

2024年パリオリンピック競技大会（以下「2024年パリ大会」）は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大と収束を経て、実に8年ぶりに観客席からの歓声が湧き上がる賑やかな大会となった。

2024年パリ大会は、パリの地域経済にどのような効果をもたらしたのか。本稿では、食品産業にもたらした経済効果を中心に振り返ることとする。

1 インバウンド動向

パリ観光局は、大会期間中（7月23日～8月11日）にパリを訪れた国内観光客は140万人（対前年比27%増）、国外からの観光客は170万人（同13%増）、合計310万人（同19%増）であると発表。2024年パリ大会は観光業にプラスの経済効果をもたらしたと評価している。

2 外食産業への影響

2024年パリ大会特有の事情としては、パリの街全体を開会式の舞台に見立て、主要観光施設も取り込んだ大がかりなショーを企画したことである。開会式の観覧席がセーヌ川沿いに設置されたため、7月初めから観光名所が集中するセーヌ川沿いを中心に広範囲な移動制限区域が設定され、一部の地下鉄駅や橋が封鎖された。人の流れが大きく変わり、移動制限区域内及び近接する観光施設や飲食店の来客数は、開会前から大幅に減少した。

パリのホテル、レストラン等で構成されるホスピタリティ業界団体は、開会式に先立つ7月14日から26日までの15日間で、少なくとも2～3割、中には売上が7割も減少した事業者もいると発表した。開会式後は一部の移動制限が緩和され、競技会場周辺の施設は売上が伸びたものの、原則オリンピック観戦客しか進入できない区域内の施設は、売上が大幅に減少した。

業界団体によると、2024年パリ大会の影響は全国にも及んだとしており、また、全国的に大会期間中は外出せず、家のテレビで競技を観戦する人々が増えたため、全国的な売上減少となったレストランチェーンもあった。

以上のとおり、2024年パリ大会により、局地的に大幅に売上が伸びた事業者はいるものの、パリの外食産業全体を通してみると、ポジティブな影響があったと総括することはできない。民間の調査会社によると、2024年パリ大会がビジネスにプラスの影響を与えたと答えた独立系レストラン経営者はわずか1割だった。

3 食品小売業への影響

こうした中、軒並み売上を伸ばしたのが食品小売業である。2024年パリ大会の公式パートナーである仏小売大手カルフルは、430万点以上のオリンピック関連商品を販売し、オリンピックが開幕した2024年7月24日以降、売りが加速した。また、駅や空港、オリンピック会場周辺では、大会期間中の売上が25%増加した。その内訳は、水、清涼飲料水、アイスクリームのほか、アペリティフ（酒類を含む軽食）関連商品の売上増が寄与している。

民間の調査会社によると、パリの食品小売業全体では、大会期間中の売上は、前年同期比で11%増、全国でも4%増だった。売上の増加傾向は競技会場への近さと直接相関しており、競技会場に近いエリアの店舗の売上は19%増だったことも判明している。こうした食品小売業への経済効果は、2012年ロンドン大会と比較して2-3倍も大きかったと評価している。

4 最後に

ホスピタリティ業界団体が、「オリンピックの客層は家族連れが中心で、バックパックにサンドイッチや飲み物を入れて持参し、夕方には家に帰って寝るという生活を送っていた」と取材に応じた点が印象深い。私はオリンピック期間中パリにいたが、観戦客が信号待ちの間に、リュックサックから粉末プロテインを取り出し、水に溶かして素早く飲み干す姿を何度も目撃し、例年パリを訪れる観光客と、オリンピック観戦客の違いを肌で感じていた。

今年6-7月ドイツで開催されたUEFA欧州選手権の試合は、パリ市内でもスポーツバーに人が集まり、大勢で飲食しながら観戦する姿が各所で見られた。他方、2024年パリ大会は、地元住民は、地下鉄やバスの混雑を避けて、家のテレビで観戦する人が多かった、という観戦スタイルの違いも食品小売業にプラスの経済効果をもたらした一因ではないだろうか。

本稿が、今後我が国が主催する国際的な大型イベントの経済効果に思いを巡らせる際のヒントになれば幸いである。

経済協力開発機構（OECD）日本政府代表部 久納寛子

参考文献

<https://parisjetaime.com/media/article/pre-bilan-JO-Paris-2024-a1755>

<https://www.adn-tourisme.fr/une-saison-estivale-2024-hors-normes-et-a-plusieurs-vitesses/>

<https://www.retail-insight-network.com/news/olympic-spending-boost-french-retailers/?cf-view>

<https://www.rts.ch/info/economie/2024/article/des-retombees-economiques-importantes-attendues-apres-la-fin-des-jo-de-paris-28596958.html>

https://www.journaldeleconomie.fr/Les-Jeux-Olympiques-boostent-les-ventes-de-produits-derives_a13857.html

<https://mesinfos.fr/75000-paris/baisse-de-la-frequentation-dans-les-musees-parisiens-pendant-les-jo-204943.html>

<https://www.bloomberg.com/news/articles/2024-08-07/air-canada-profit-drops-weighed-down-by-pressure-on-airfares>

<https://edition.cnn.com/2024/07/24/business/delta-ceo-paris-olympics/>

<https://www.processalimentaire.com/vie-des-iaa/l-effet-jo-de-paris-2024-de-bons-resultats-pour-la-grande-distribution-alimentaire>

<https://www.lhotellerie-restauration.fr/actualite/entre-jeux-olympiques-et-defis-economiques-un-ete-sous-tension-pour-la-restauration>

<https://www.lhotellerie-restauration.fr/actualite/paris-2024-un-premier-bilan-tres-mitige>

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴や考え方、また、日本の食料品や文化等に対するイメージなどについてもご紹介したいと思います

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ等で上方修正されたものの、EU、ロシア、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

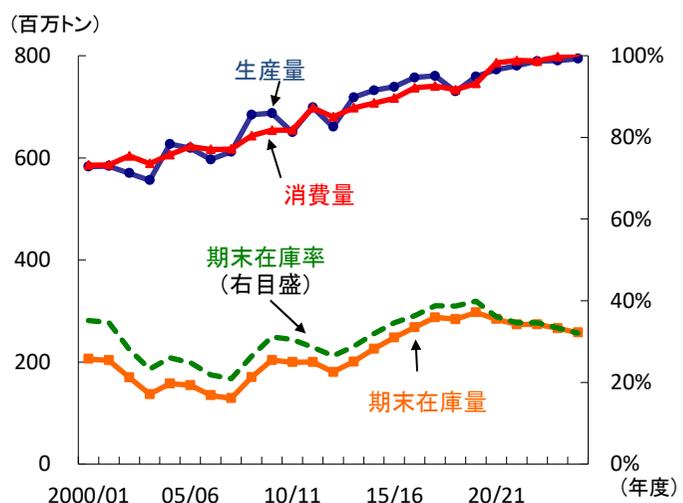
消費量 前年度比 前月比

- ・米国等で上方修正されたものの、インド、アフガニスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ等で上方修正されたものの、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2024. 10. 11) をもとに農林水産省にて作成

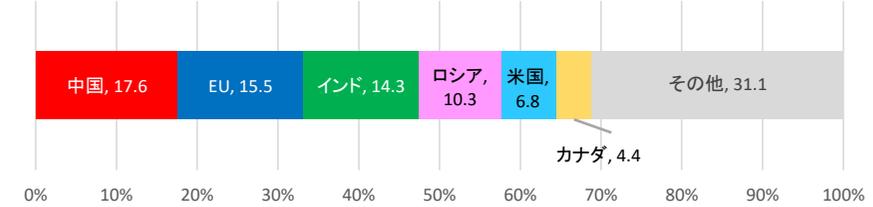
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

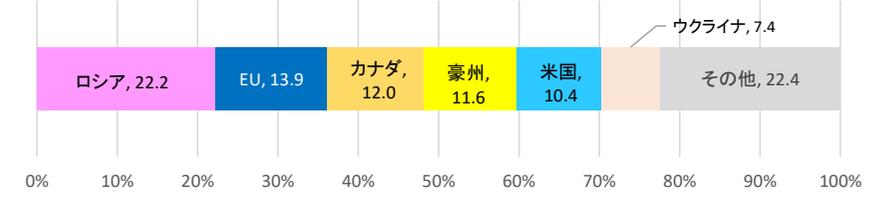
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	789.5	790.4	794.1	▲ 2.8	0.5
消費量	789.4	797.8	802.5	▲ 2.4	0.6
うち飼料用	152.7	158.5	151.8	▲ 0.1	▲ 4.3
輸出量	221.7	221.3	215.8	▲ 0.7	▲ 2.5
輸入量	213.1	221.8	210.8	0.5	▲ 5.0
期末在庫量	273.6	266.2	257.7	0.5	▲ 3.2
期末在庫率	34.7%	33.4%	32.1%	0.2	▲ 1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 October 2024)

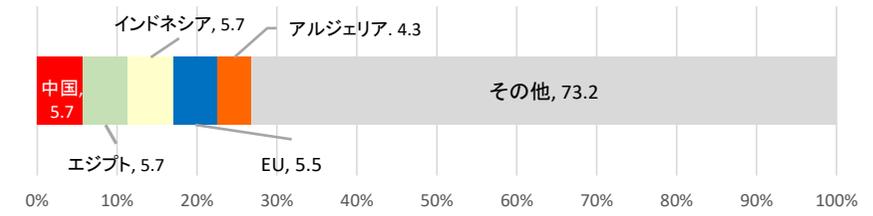
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(794.1百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(215.8百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(210.8百万トン) (単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 53.7 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、単収の引下げを受け前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 53.7 百万トンとなるものの、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均 (48.2 百万トン) と比べても 11.4%増となる見込み。

品種別には、ハード・レッド・ウインター (HRW) が 21.0 百万トン (前年度比 29.3%増)、ハード・レッド・スプリング(HRS)が 13.7 百万トン (同 8.0%増)、ホワイト小麦 (WW) が 7.5 百万トン (同 17.7%増)、デュラム小麦 (Durum) が 2.2 百万トン (同 34.9%増) と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター (SRW) は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等受け 9.3 百万トン (同 23.7%減) となる見込み。

同「Crop Progress」(2024.9.23 及び 10.15) によれば、2024/25 年度の春小麦の収穫進捗率は 9 月 22 日時点で 96%と収穫はほぼ終了している。2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 10 月 13 日現在で 64%と前年同期 65%、過去 5 年平均 66%を下回っている。また、出芽進捗率も 35%と前年同期 36%、過去 5 年平均 38%を下回っている。

同「Wheat Outlook」(2024.10.16) によれば、10 月 8 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付地域の 47%が干ばつとなっているものの、前年同期 49%と比べれば減少しており、また干ばつの強さも前年同期に比べ弱くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 16.7%増と 4 年ぶりの高水準となるものの、過去 5 年平均 (23.0 百万トン) 比では 2.4%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～8 月の輸出量は、586.3 万トンと前年同期比 37.6%増となっており、国別にはメキシコ 93.2 万トン (15.9%)、日本 66.2 万トン (11.3%)、フィリピン 58.9 万トン (10.0%) の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 22.1 百万トンとなるものの、前年度と比べ 16.6%増加し 4 年ぶりの高水準となる見込み。

小麦一米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	44.9	49.1	53.7	▲ 0.3	9.3
消費量	30.3	30.2	31.2	0.3	3.4
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	0.3	41.6
輸出量	20.7	19.2	22.5	-	16.7
輸入量	3.3	3.8	3.1	0.3	▲ 16.8
期末在庫量	15.5	19.0	22.1	▲ 0.4	16.6
期末在庫率	30.4%	38.4%	41.2%	▲ 1.0	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.01	15.57	0.22	3.7
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.45	▲ 0.06	5.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 October 2024)

図 品種別生産量の推移



資料: USDA 「Wheat Data」(2024.10.15)をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年6月～8月)		2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)		2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)	
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	93.2	15.9	メキシコ	325.8	17.4
日本	66.2	11.3	フィリピン	274.5	14.7
フィリピン	58.9	10.0	中国	216.9	11.6
韓国	52.5	9.0	日本	197.1	10.5
タイ	26.3	4.5	韓国	130.1	6.9
台湾	24.3	4.1	台湾	110.5	5.9
その他	264.9	45.2	その他	618.1	33.0
計	586.3	100.0	計	1,873.0	100.0

資料: USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の輸出量は前年度比 0.3%増の 25.4 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.10.21)によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 34.3 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度 (32.9 百万トン) に比べ 4.1%増、過去 5 年平均 (31.7 百万トン) と比べても 8.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦は 28.3 百万トンと、前年度 (28.9 百万トン) に比べ 2.1%減となるものの、過去 5 年平均 (26.8 百万トン) と比べれば 5.6%増となる見込み。デュラム小麦は 6.0 百万トンと、前年度 (4.1 百万トン) に比べ 47.6%増、過去 5 年平均 (4.9 百万トン) と比べても 23.1%増となる見込み。

主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、10 月 14 日現在、全ての小麦の収穫が完了している。アルバータ州では、10 月 15 日現在、冬小麦及びデュラム小麦の収穫は完了し、春小麦も収穫進捗率は 98.6%と収穫はほぼ完了している。マニトバ州では、10 月 15 日現在、冬小麦の収穫は完了し、春小麦も収穫進捗率は 99%と収穫はほぼ完了している。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 25.4 百万トンと、前年度 (25.3 百万トン) と比べ 0.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 20.6 百万トンとなるものの、前年度 (21.8 百万トン) に比べ 5.4%減となる見込み。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 4.8 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度 (3.6 百万トン) に比べ 34.9%増となる見込み。デュラム小麦の輸出量は、欧州及び北アフリカからの旺盛な需要に牽引される一方、前年度に比べトルコ及びロシアとの競合は減少する可能性がある。

カナダ穀物委員会 (CGC)によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月の輸出量は、143.8 万トンと前年同期比 8.5%減。種類別には、普通小麦が前年同期比 11.5%減の 123.8 万トンで、国別にはインドネシア 15.9 万トン (12.9%)、ペルー 15.3 万トン (12.4%)、コロンビア 12.7 万トン (10.3%) の順。デュラム小麦は前年同期比 15.3%増の 20.1 万トンで、国別にはモロッコ 7.3 万トン (36.2%)、日本 2.9 万トン (14.3%)、米国 2.5 万トン (12.2%) の順。

AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量の引上げ等を受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 4.9 百万トンとなるものの、前年度 (4.6 百万トン) に比べ 6.2%増となる見込み。

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.8	33.0	35.0 (34.3)	-	6.2
消費量	8.3	9.1	9.6 (8.7)	-	5.4
うち飼料用	3.2	4.0	4.5 (4.4)	-	12.2
輸 出 量	25.6	25.4	26.0 (25.4)	-	2.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.5 (4.9)	-	▲ 1.1
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.7% (14.4%)	-	▲ 0.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.60 (10.53)	-	▲ 0.9
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.30 (3.26)	-	7.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 October 2024)

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン)

2024/25年度 (2024.8)			2023/24年度 (2023.8～2024.7)			2022/23年度 (2022.8～2023.7)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	15.9	12.9%	中国	310.3	14.7%	中国	296.8	15.1%
ペルー	15.3	12.4%	インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8	10.9%
コロンビア	12.7	10.3%	日本	173.9	8.2%	日本	167.3	8.5%
ベトナム	11.3	9.1%	バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3	7.5%
日本	9.7	7.8%	ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4	7.3%
その他	58.9	47.6%	その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1	50.7%
計	123.8	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6	100.0%

(輸出量: 万トン)

2024/25年度 (2024.8)			2023/24年度 (2023.8～2024.7)			2022/23年度 (2022.8～2023.7)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
モロッコ	7.3	36.2%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0	23.8%
日本	2.9	14.3%	モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8	23.8%
米国	2.5	12.2%	米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7	16.9%
アラブ首長国連邦	2.4	12.1%	イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4	9.9%
ペルー	1.2	5.9%	日本	21.2	6.2%	チェコ	32.5	6.4%
その他	3.9	19.3%	その他	60.4	17.6%	その他	96.8	19.1%
計	20.1	100.0%	計	343.5	100.0%	計	507.3	100.0%

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 霜害により NSW 州、VIC 州及び SA 州で生産量が下方修正の可能性

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」（2024.9.3）によれば、2024/25 年度の実産量は、エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加（収穫面積は前年度比 5.2%増、単収は同 16.6%増）すること受け 31.8 百万トンと、前年度（26.0 百万トン）と比べ 22.6%増、過去 5 年平均（29.8 百万トン）と比べても 6.7%増となる見込み。

州別の生産量は、ウェスタンオーストラリア州（WA 州）が 10.4 百万トン（前年度比 35.1%増）、ニューサウスウェールズ州（NSW 州）が 11.0 百万トン（同 55.0%増）、クイーンズランド州（QLD 州）が 2.1 百万トン（同 94.4%増）と、降雨に恵まれたことから前年度に比べ増加する一方、サウスオーストラリア州（SA 州）が 4.3 百万トン（同 10.4%減）、ビクトリア州（VIC 州）が 4.0 百万トン（同 23.6%減）と、乾燥が続いていることから前年度に比べ減少する見込み。

西豪州穀物産業協会（GIWA）「Crop Report」（2024.10.18）によれば、WA 州の 2024/25 年度の実産量は、9 月に入り降雨量が不足していたものの、9 月下旬から 10 月上旬の降雨が生育の遅れていた小麦に好影響を与えたことから、前月予測から 0.61 百万トン上方修正され 9.91 百万トンとなる見込み。

報道によれば、9 月に入り豪州全体で乾燥した天候が続いたことや、NSW 州、SA 州及び VIC 州の広範囲に霜が降りたことから、生産量が下方修正の可能性がある。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2024/25 年度の実輸出量は 21.8 百万トンと、増産を受け前年度（19.8 百万トン）と比べ 10.0%増となるものの、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べると 2.7%減となる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、25.0 百万トンと、前年度と比べ 25.0%増、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。

ABARES によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年 8 月までの輸出量は 1,871.6 万トンと、乾燥により生産量が減少したことから前年同期（3,030.6 万トン）に比べ 38.2%減少している。国別には、中国 375.0 万トン（20.0%）、インドネシア 307.5 万トン（16.4%）、フィリピン 219.0 万トン（11.7%）の順となっており、前年同期と同様に中国のシェアが高くなっている。

2024/25 年度の実在庫量は、4.1 百万トンと、前年度（2.8 百万トン）に比べ 47.8%増となる見込み。

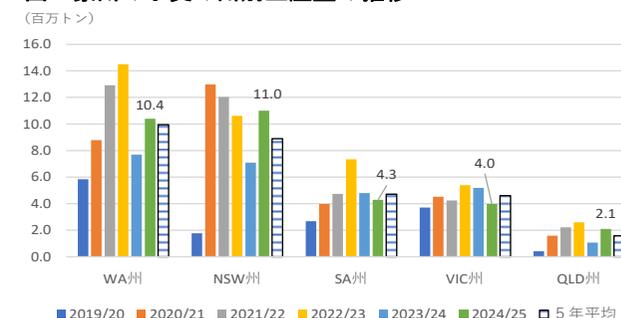
小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年10月～25年9月)		
			予測値、()はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	40.6	26.0	32.0 (31.8)	-	23.3
消費量	8.0	7.5	7.5 (8.7)	-	-
うち飼料用	4.5	4.0	4.0	-	-
輸 出 量	31.8	20.0	25.0 (21.8)	-	25.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2	-	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	3.1	2.8 (4.1)	-	▲ 9.8
期末在庫率	11.0%	11.1%	8.5% (13.5%)	-	▲ 2.6

（参考）
 収穫面積(百万ha) 13.05 12.37 13.00 (13.01) - 5.1
 単収(t/ha) 3.11 2.10 2.46 (2.45) - 17.1
 資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(11 October 2024)
 ABARES 「Australian Crop Report」(3 September 2024)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料：ABARES「Australian Crop Report」（2024.9.3）をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年10月～2024年8月)			2022/23年度 (2022年10月～2023年8月)			2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	375.0	20.0	中国	735.8	24.3	中国	759.2	23.9
インドネシア	307.5	16.4	インドネシア	488.9	16.1	インドネシア	502.9	15.8
フィリピン	219.0	11.7	フィリピン	281.3	9.3	フィリピン	307.6	9.7
イエメン	152.4	8.1	ベトナム	274.4	9.1	ベトナム	285.5	9.0
韓国	115.0	6.1	韓国	259.7	8.6	韓国	270.0	8.5
日本	112.5	6.0	タイ	193.1	6.4	タイ	199.2	6.3
その他	590.2	31.5	その他	797.6	26.3	その他	855.7	26.9
計	1,871.6	100.0	計	3,030.6	100.0	計	3,180.0	100.0

資料：ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25年度の生産量は前月から下方修正され121.8百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2024.9.27) によれば、2024/25年度の生産量は、ドイツ等で生産量が下方修正されたことを受け、前月予測から1.2百万トン下方修正され121.8百万トンとなる見込み。2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度(132.5百万トン)比8.1%減、過去5年平均(133.4百万トン)と比べても8.7%減。このうち、普通小麦は前月予測から1.5百万トン下方修正され114.6百万トンと、前年度比8.7%減、過去5年平均比でも9.0%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け同24.3%減の26.3百万トン、ドイツも同13.3%減の18.3百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測から0.3百万トン上方修正され7.2百万トンと、前年度比2.7%増となるものの、過去5年平均比では3.8%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比61.9%増の0.7百万トンとなる一方、イタリアが乾燥により同5.1%減の3.5百万トンとなる見込み。

USDAによれば、2024/25年度の実績は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から1.0百万トン下方修正され123.0百万トンと、前年度と比べ8.8%減、過去5年平均(134.6百万トン)と比べても8.6%減となる見込み。同「Wheat Outlook」(2024.10.16)によれば、EUの生産量の下方修正はフランス、ベルギー等の生産量減少によるもので、欧州北西部の過剰な降雨と日照不足は生産量と品質に大きな影響を与えている。

【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からわずかに上方修正され26.7百万トンとなるものの、減産を受け前年度(36.3百万トン)比26.5%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月の輸出量は、287.3万トンと、前年同期比10.6%減。種類別には、普通小麦が281.6万トンと、前年度比11.7%減となる一方、デュラム小麦が5.7万トンと、同117.5%増。

2024/25年度の輸入量は、ウクライナの生産量の引上げ等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され10.0百万トンとなるものの、ウクライナの減産で同国からの輸入が減少すること等から前年度(12.1百万トン)比17.2%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月の輸入量は、72.2万トンと、域内における減産等を受け前年同期比24.6%増。種類別には、普通小麦が62.9万トンと、前年度比37.1%増となる一方、デュラム小麦が9.3万トンと、同23.0%減。

2024/25年度の期末在庫量は、減産等を受け前月予測から0.5百万トン下方修正され12.5百万トンと、供給量の減少から前年度(17.9百万トン)と比べ30.2%減となる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	134.9	123.0 (121.8)	▲ 1.0	▲ 8.8
消費量	109.0	111.0	108.8 (110.5)	-	▲ 2.0
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (45.6)	-	▲ 4.3
輸出量	35.1	37.9	30.0 (26.7)	▲ 1.5	▲ 20.8
輸入量	12.2	12.6	11.5 (10.0)	-	▲ 8.9
期末在庫量	16.0	14.7	10.4 (12.5)	0.5	▲ 29.0
期末在庫率	11.1%	9.8%	7.5% (9.1%)	0.4	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	24.31	22.90 (22.55)	▲ 0.10	▲ 5.8
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.37 (5.40)	▲ 0.02	▲ 3.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(27 September 2024)

図 EU27の小麦生産量の推移

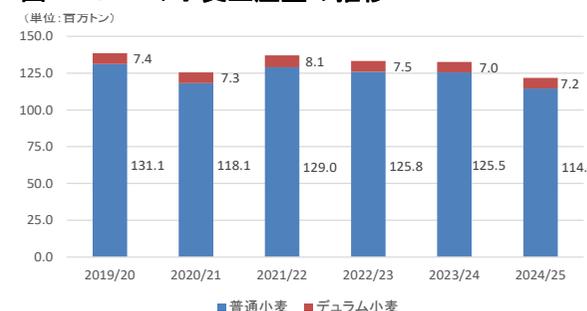


図 EU27の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量					O輸入量				
国名	2024/25年度 (2024.7)		2023/24年度 (2023.7～2024.6)		国名	2024/25年度 (2024.7)		2023/24年度 (2023.7～2024.6)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	42.4	14.7%	489.1	13.5%	ウクライナ	36.3	50.2%	647.4	53.6%
エジプト	40.1	13.9%	175.0	4.8%	カナダ	12.3	17.0%	138.5	11.5%
ナイジェリア	28.8	10.0%	348.9	9.6%	モルドバ	8.2	11.4%	73.6	6.1%
アルジェリア	18.7	6.5%	393.7	10.8%	トルコ	5.6	7.7%	76.8	6.4%
サウジアラビア	17.5	6.1%	155.4	4.3%	英国	3.6	5.0%	51.9	4.3%
タイ	13.4	4.7%	107.6	3.0%	セルビア	2.6	3.6%	35.5	2.9%
その他	126.4	44.0%	1,964.1	54.1%	その他	3.7	5.1%	185.2	15.3%
合計	287.3	100.0%	3,633.7	100.0%	合計	72.2	100.0%	1,208.9	100.0%

資料: EC 「EU trade for cereals」(2024.9.27)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 82.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量（クリミア地域分を含まず）は、単収の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 82.0 百万トンと、前年度と比べ 10.4%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 1.8%減となる見込み。種類別には、冬小麦が前月予測からの変更はなく 57.5 百万トンと、5 月の霜害とそれに続く高温乾燥により前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦が単収の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 24.5 百万トンと、霜害と高温乾燥により前年度（27.5 百万トン）に比べ 10.9%減となる見込み。

ロシア農業省によれば、10 月 11 日現在、2024/25 年度の小麦（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は 95%と前年同期 94%を上回り、8,234 万トンが収穫されている。また、2025/26 年度の冬小麦の作付けが始まっており、1,342 万ヘクタールで作付け（前年同期 1,409 万ヘクタール）され、作付進捗率は 74%と乾燥により作付けが遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 13.5%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）に比べれば 13.2%増となる見込み。現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～9 月の輸出量は 1,418.3 万トンと、前年同期 1,484.0 万トンに比べ 4.4%減となっている。国別には、エジプト 261.2 万トン（18.4%）、アルジェリア 100.9 万トン（7.1%）、トルコ 94.4 万トン（6.7%）、バングラデシュ 84.3 万トン（5.9%）、ケニア 69.1 万トン（4.9%）の順。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2024.10.11) によれば、ロシア産は EU 産に比べ価格競争力があり、また、2024/25 年度の EU の生産量は前年度に比べ 9%減少すると推定され、特に EU の主要輸出国のフランスでは生産量と品質が大幅に低下した。これにより、ロシアの 7 月～9 月の輸出は、減産で輸出余力が減少しているにもかかわらず、EU の主要な輸出市場であるアジア、中東、アフリカでシェアを拡大している。現地情報会社の情報によれば、10 月 15 日、ロシア穀物同盟は小麦の輸出価格の参考価格を発表した。参考価格は適正な輸出価格の指標となるものであり、ロシア農業省と同盟が合意の上で決定され、今後も定期的に公表される予定。同盟の加盟企業は参考価格に従う義務はないものの、今後、輸出価格は上昇し輸出が鈍化する可能性がある。USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げ等を受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 7.2 百万トンとなるものの、前年度に比べ 38.1%減となる見込み。

小麦—ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	92.0	91.5	82.0 (81.8)	▲ 1.0	▲ 10.4
消費量	41.0	39.0	38.8 (39.0)	-	▲ 0.6
うち飼料用	18.0	16.0	16.0 (16.0)	-	-
輸出量	49.0	55.5	48.0 (43.7)	-	▲ 13.5
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	11.7	7.2 (9.0)	0.5	▲ 38.1
期末在庫率	16.0%	12.4%	8.3% (10.9%)	0.6	▲ 4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (27.73)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.93 (2.95)	▲ 0.03	▲ 7.6
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(11 October 2024) IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)					

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.10.11) をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年9月)		2024/25年度 (2024年7月～9月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
エジプト	121.1	エジプト	261.2	エジプト	868.3
アルジェリア	44.8	アルジェリア	100.9	トルコ	691.9
トルコ	29.7	トルコ	94.4	バングラデシュ	350.2
イラン	27.3	バングラデシュ	84.3	アルジェリア	236.8
ケニア	23.8	ケニア	69.1	サウジアラビア	224.8
バングラデシュ	16.6	サウジアラビア	57.0	カザフスタン	222.2
アゼルバイジャン	16.2	イスラエル	49.2	パキスタン	213.0
その他	251.1	その他	702.2	その他	2,602.8
計	530.6	計	1,418.3	計	5,410.0

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> 2024/25年度の生産量は前月から上方修正され22.9百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実生産量（クリミア地域分を含む）は、単収の引上げを受け前月予測から0.6百万トン上方修正され22.9百万トンとなるものの、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の冬小麦及び春小麦の収穫は完了しており、生産量は2,232.7万トンとなる見込み。また、10月14日現在の2025/26年度の冬小麦の作付進捗率は75%と、前年同期69%を上回っているものの、現地情報会社の9月末時点の情報によれば、東部及び南部の一部を除く多くの地域では、乾燥により作付け後、長期間にわたって発芽が見られないケースがあり、降雨が必要となっている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され16.0百万トンとなるものの、生産量の減少等により前年度と比べ13.9%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても11.6%減となる見込み。

現地情報会社によれば、8月20日、ウクライナ政府は小麦等の適正な輸出を確保するため最低輸出価格の承認に関する決議を採択した。最低輸出価格は毎月10日までに承認・公表され、当該価格に対し最大10%の減まで（最低輸出価格の90%以上の価格は輸出可能）認められる。また、9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の付属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

2024/25年度のうち2024年7月～9月の輸出量は609.8万トンと、2023年7月のロシアの黒海穀物イニシアティブ離脱を受け輸出量が減少していたことや2024/25年度産の収穫が平年よりも早かったことを受け、前年同期（333.7万トン）に比べ82.7%増。国別にはスペイン144.5万トン（23.7%）、インドネシア99.6万トン（16.3%）、ベトナム63.8万トン（10.5%）の順で、昨年度同様スペインが首位である一方、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、期首在庫量の下方修正等を受け前月予測から0.1百万トン下方修正され1.0百万トンと、前年度に比べ39.4%増となるものの、史上3番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

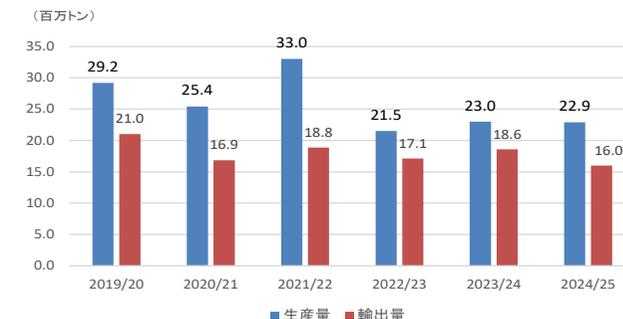
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	21.5	23.0	22.9 (25.4)	0.6	▲ 0.4
消費量	7.8	6.7	6.7 (9.4)	▲ 0.3	-
うち飼料用	3.0	2.0	2.0 (1.4)	▲ 0.2	-
輸 出 量	17.1	18.6	16.0 (16.2)	1.0	▲ 13.9
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.0 (0.7)	▲ 0.1	39.4
期末在庫率	11.8%	2.8%	4.4% (2.6%)	▲ 0.6	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.40 (4.11)	0.11	▲ 4.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図 ウクライナの小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年9月)		2024/25年度 (2024年7月～9月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
スペイン	67.0	スペイン	144.5	スペイン	589.9
インドネシア	39.0	インドネシア	99.6	エジプト	172.1
タイ	27.8	ベトナム	63.8	インドネシア	151.5
ベトナム	26.0	エジプト	46.8	トルコ	107.8
イタリア	12.5	タイ	44.0	ルーマニア	100.1
エジプト	10.7	アルジェリア	40.2	パキスタン	81.4
チュニジア	9.0	イタリア	23.9	ベトナム	75.1
オランダ	5.6	チュニジア	22.1	ハンガリー	73.7
イエメン	5.4	イエメン	22.0	イタリア	67.7
ハンガリー	5.4	ハンガリー	16.6	アルジェリア	63.3
その他	23.1	その他	86.2	その他	358.0
合計	231.5	合計	609.8	合計	1,840.6

資料：APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024年7月～8月の輸入量は前年同期比 21.6%減

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく140.0百万トンと、前年度と比べ2.5%増、過去5年平均（135.8百万トン）と比べても3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家统计局によれば、2024/25年度の冬小麦の作付面積は23.09百万ヘクタールと、前年度に比べ0.1%増（3.2万ヘクタール増）となる見込み。単収は5.99トン/ヘクタールと、前年度と比べ2.6%増。生産量は138.2百万トンと、前年度と比べ2.7%増となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」（2024.10.14）によれば、2025/26年度の冬小麦の作付けが始まっており、作付進捗率は、山東省30%以上、河南省15%以上、安徽省10%未満、江蘇省約4%、河北省は作付けが始まったところである。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく151.0百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24年度に飼料用グレード国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ1.6%減となるものの、過去5年平均（146.1百万トン）と比べれば3.4%増となる見込み。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく12.0百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ12.0%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25年度のうち2024年7月～8月までの輸入量は121.2万トンと、増産を受け前年同期（154.6万トン）に比べ21.6%減となっている。国別には、米国38.0万トン（31.4%）、カナダ37.1万トン（30.7%）、豪州17.8万トン（14.7%）の順となっており、豪州が2023/24年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の62.1%から14.7%と大きくシェアを減らしている一方で、米国及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報2024年9月号」によれば、8月の小麦輸入量は約41万トンと、増産により市場に十分な供給があったことや小麦粉の需要も低調であったことに加え、8月は華北及び黄淮地区（河北省、山東省、河南省、安徽省、江蘇省）で高温と降雨が続き、小麦の貯蔵が難しくなり出荷量を増加させたこともあり、前月に比べ49%減となった。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく134.5百万トンと、前年度並みとなる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

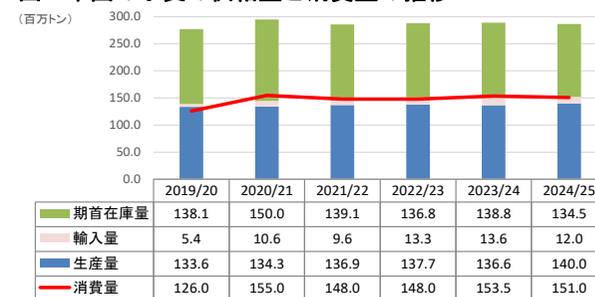
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.7	136.6	140.0 (140.0)	-	2.5
消費量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲ 1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲ 3.8
輸 入 量	13.3	13.6	12.0 (10.7)	-	▲ 12.0
期末在庫率	93.2%	87.0%	88.5% (96.6%)	-	-
期末在庫率	93.2%	87.0%	88.5% (96.6%)	-	1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70 (23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91 (5.92)	-	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

国 名	2024/25年度 (2024年7月～8月)		2023/24年度 (2023年7月～8月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
米国	38.0	31.4	0.6	0.4	181.8	13.6
カナダ	37.1	30.7	35.1	22.7	307.8	23.0
豪州	17.8	14.7	96.0	62.1	503.5	37.7
カザフスタン	14.5	11.9	18.1	11.7	66.8	5.0
ロシア	12.7	10.5	4.1	2.7	43.0	3.2
日本	0.7	0.6	0.5	0.3	3.3	0.2
フランス	0.3	0.2	0.1	0.1	230.1	17.2
その他	0.1	0.0	0.1	0.1	0.6	0.0
計	121.2	100.0	154.6	100.0	1,336.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・インド、米国等で上方修正されたものの、ウクライナ、エジプト、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

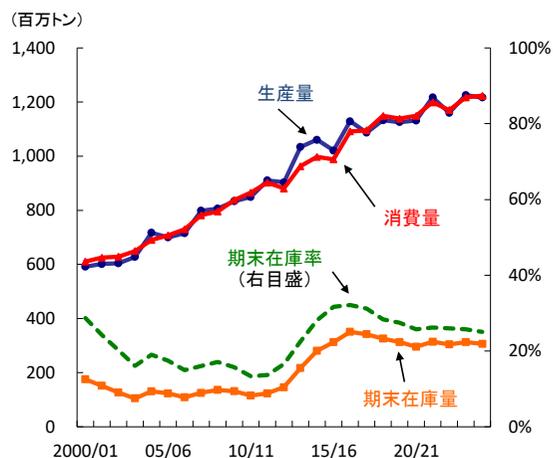
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・イラン等で下方修正されたものの、アルゼンチン、ブラジル、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国等で上方修正されたものの、ウクライナ、ロシアで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省にて作成。

◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

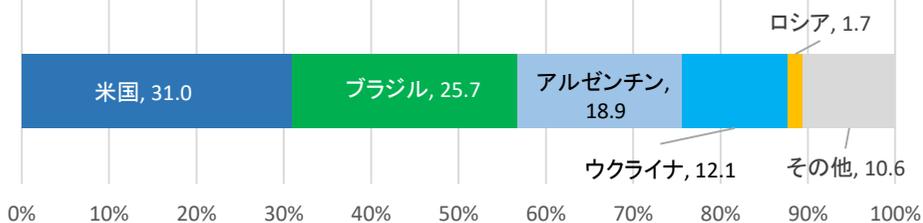
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,160.7	1,225.9	1,217.2	▲ 1.4	▲ 0.7
消費量	1,170.5	1,217.4	1,223.3	3.5	0.5
うち飼料用	734.5	770.2	774.3	2.1	0.5
輸出量	180.2	195.8	190.5	▲ 0.9	▲ 2.7
輸入量	173.4	192.8	183.8	▲ 1.6	▲ 4.7
期末在庫量	304.1	312.7	306.5	▲ 1.8	▲ 2.0
期末在庫率	26.0%	25.7%	25.1%	▲ 0.2	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 October 2024)

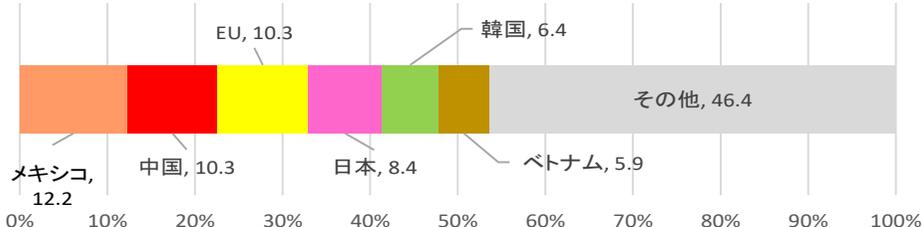
○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,217.2百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(190.5百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.8百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 単収の引上げにより、生産量は前月から0.5百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実生産量は、単収が前月予測から0.02トン/ヘクタール引き上げられたため、前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少（対前年度比4.4%減）を受け、史上最高の前年度より0.9%減の386.2百万トンと史上2番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

USDA「Crop Progress」（2024.10.15）によれば、10月13日現在、主要生産18州における成熟進捗率は94%と、前年同期（93%）、過去5年平均（89%）を上回っている。収穫進捗率は47%と、前年同期（42%）、過去5年平均（39%）を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は64%であり、乾燥の影響を受けた前年同期（54%）を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用等消費の減少を受けて、前年度に比べ0.1%減の321.7百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、現在の順調な輸出ペースを受けて前月予測から0.6百万トン上方修正され、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より1.4%増の59.1百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.10.11）によれば、米国産の輸出価格は、10月9日現在、堅調な需要等を受けて前月から5ドル/トン上昇したものの、211ドル/トンと、ブラジル産（213ドル/トン）、アルゼンチン産（220ドル/トン）を下回り、価格競争力を有している。なお、2024年9月の輸出量は373万トンと、2023/24年度の豊作を受けて前年同期の298万トンより25%増。主な輸出先は、メキシコ186万トン（50.1%）、コロンビア61万トン（16.4%）、日本53万トン（14.2%）の順。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、供給量の引下げ及び輸出量の引上げを受けて、前月予測から1.5百万トン下方修正されたものの、高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より13.5%増の50.8百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.6ポイント上昇し13.3%と、過去5年平均（10.7%）を上回っている。

とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.7	389.7	386.2	0.5	▲ 0.9
消費量	305.9	322.0	321.7	-	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.7	148.0	-	0.2
エタノール用等	131.5	139.0	138.4	-	▲ 0.4
輸出量	42.2	58.2	59.1	0.6	▲ 1.4
輸入量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.7	50.8	▲ 1.5	13.5
期末在庫率	9.9%	11.8%	13.3%	▲ 0.4	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.47	-	▲ 4.4
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.54	0.02	3.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)

図1 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(千t,百万ha) (t/ha)



資料: USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省にて作成

図2 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.10.15) によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 3.5%増の 119.7 百万トンの見込み。現在作付けが開始されている夏とうもろこし (大豆-ブラジルのクロップカレンダー (P.23) 参照) は、生産コストの増加による大豆等の他作物への作付けのシフトによる作付面積の減少等を受けて、前年度比 1.1%減の 22.7 百万トンの見込み。一方、12 月末以降に作付けが開始される冬とうもろこしは、単収の増加等を受け、前年度比 4.6%増の 97.0 百万トンの見込み。ただし、9 月の高温乾燥の影響で大豆の作付けが遅れており、大豆の収穫後に作付けされる冬とうもろこしの作付面積が減少する可能性がある。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.10.16) によれば、2024/25 年度の夏とうもろこしについて、10 月 7 日現在、南部のパラナ州の作付進捗率は 85%と前年同期並み。一方、10 月 10 日現在、南部のリオ・グランデ・ド・スール州の作付進捗率は、64%と、前年同期 (65%) を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、エタノール用消費の増加から、前年度より 1.2%増の 82.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 6.5%増の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

なお、2023/24 年度の実輸出量は、直近の貿易データに基づき前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、史上最高の豊作となった 2022/23 年度より 15.3%減の 46.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～9 月の輸出量は 24.4 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 28%減。内訳は、エジプト 3.0 百万トン (12.4%)、ベトナム 2.4 百万トン (9.8%)、韓国 2.3 百万トン (9.4%) の順。中国向け輸出量は 1.9 百万トンと、前年同期 (7.9 百万トン) より 76%減と大幅に減少している。

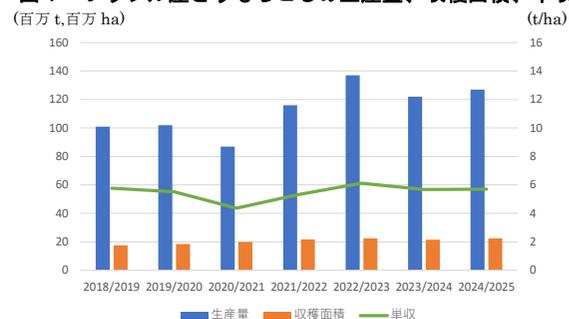
とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予 測 値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	137.0	122.0	127.0 (119.7)	-	4.1
消 費 量	78.0	81.5	82.5 (87.0)	1.0	1.2
うち飼料用	61.5	63.0	63.0	-	-
輸 出 量	54.3	46.0	49.0 (34.0)	-	6.5
輸 入 量	1.3	1.3	1.5 (1.9)	-	15.4
期末在庫量	10.0	5.8	2.8 (5.0)	-	▲ 51.4
期末在庫率	7.6%	4.6%	2.2% (4.2%)	▲ 0.02	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30 (21.00)	-	3.7
単収 (t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.70)	-	0.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
CONAB 「Grãos」 (15 October 2024)

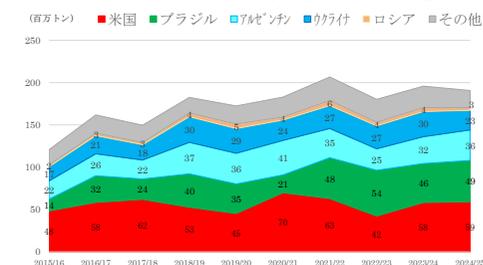
図 1 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

図 2 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

(ブラジルは米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国)



資料：USDA 「PS&D」(2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均 (49.7 百万トン) より 2.6%増の 51.0 百万トンの見込み。病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が平年並みに戻り増加すると見込まれることによる。

ブエノスアイレス取引所週報 (2024.10.17) によれば、10 月上旬の降雨を受けて、農業地域の大部分で作付作業のペースが上がり、作付進捗率は 24.3%と、前年同期 (19.9%) より進んでいる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」 (2024.10.16) によれば、10 月上旬、干ばつが厳しかった西部地域に降雨があり、出芽に向けた土壌水分量は増加したとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 35.1%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要の引上げを受けて前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、前年度から 0.3%増の 16.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 12.5%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は 2,449.3 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期 (1,756.3 万トン) 比で 39%増となった。内訳は、ベトナム 484.8 万トン (19.8%)、ペルー 272.5 万トン (11.1%)、マレーシア 217.7 万トン (8.9%) の順。

昨年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の 1 ドル=350 ペソから 1 ドル=800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続している。

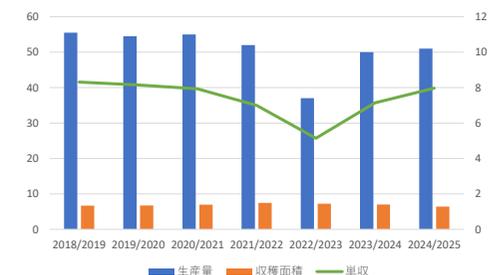
とうもろこし-アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	37.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0	
消費量	14.2	16.3	16.3 (20.5)	1.5	0.3	
うち飼料用	10.0	12.0	12.0 (15.4)	1.7	-	
輸出量	25.2	32.0	36.0 (35.0)	-	12.5	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	2.3	4.1	2.8 (1.6)	1.1	▲ 31.8	
期末在庫率	5.9%	8.5%	5.3% (2.9%)	1.9	▲ 3.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.20	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6	
単収(t/ha)	5.14	7.14	7.97 (7.07)	-	11.6	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」 (11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (19 September 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t,百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」 (2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

表 アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国
(単位:万 t)

2024年8月		2024年1月～8月	
国名	輸出量	国名	輸出量
ベトナム	57.3	ベトナム	484.8
ペルー	45.4	ペルー	272.5
サウジアラビア	42.5	マレーシア	217.7
韓国	26.2	アルジェリア	212.8
チリ	24.2	韓国	200.1
その他	104.4	その他	1,061.4
計	300.0	計	2,449.3

資料: アルゼンチン国家統計局 (INDEC) をもとに
農林水産省にて作成

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 19.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績に基づき単収が引下げられたことを受けて、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度より 19.4%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.8%減の 26.2 百万トンとなる見込み。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 17.4%減）することにより、減産となる見込み。

10 月 10 日現在、収穫進捗率は 49%と、前年同期（22%）より進んでいる。

USDA によれば、10 月上旬、ウクライナ西部で降雨があった一方、東部では降雨がなく干ばつが続いている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減を受けて前年度より 4.7%減の 4.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引下げを受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、これを受け、前年度より 22.3%減の 23.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 9.2%増の 29.6 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 9 月の輸出量は 2,855 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、前年同期比で 6.2%増。輸出先国は、スペイン 617.4 万トン（21.6%）、中国 461.9 万トン（16.2%）、エジプト 361.9 万トン（12.7%）、オランダ 277.7 万トン（9.7%）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、減産による供給減から前年度より 56.8%減、侵攻前の 5 か年平均より 78%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.0 ポイント減の 2.3%と、2000/01 年度以降で最低の水準となる見込み。

報道情報（2024.10.14）によれば、10 月上旬、黒海においてロシアが民間穀物輸送船 2 隻を攻撃した。黒海のウクライナ臨時回廊を航行する船舶の保険料は、10 月 14 日現在、前週から 1%上昇しており、価格上昇の主な要因はロシアによるオデッサ港周辺へのミサイル攻撃とみられる。

とうもろこし-ウクライナ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.0	32.5	26.2 (26.0)	▲ 1.0	▲ 19.4
消費量	4.9	4.3	4.1 (4.7)	-	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.1 (3.3)	-	▲ 6.1
輸出量	27.1	29.6	23.0 (21.6)	▲ 1.0	▲ 22.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.8	1.5	0.6 (0.7)	▲ 0.1	▲ 56.8
期末在庫率	8.7%	4.3%	2.3% (2.6%)	▲ 0.3	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.20)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.39 (6.19)	▲ 0.24	▲ 17.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)、
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見込み)

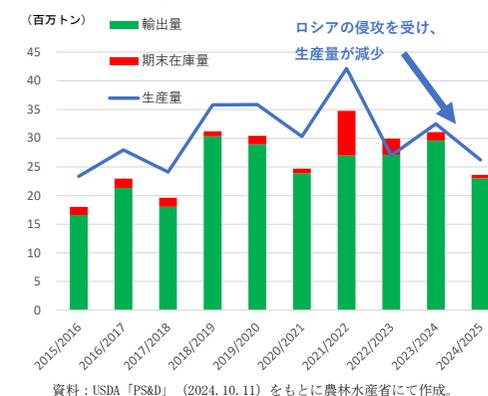


表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

(単位：万 t)

2024年 9 月		2023年10月～2024年 9 月	
国名	輸出量	国名	輸出量
イタリア	14.2	スペイン	617.4
オランダ	6.9	中国	461.9
ギリシャ	4.0	エジプト	361.9
リビア	3.9	オランダ	277.7
トルコ	3.4	イタリア	253.0

資料：ウクライナ国家統計局のデータを基に農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

全国農業気象月報（2024.10.3）によれば、9 月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、とうもろこしの成熟に適していたとみられる。9 月末現在、主産地の黒龍江省では概ね乳熟期から成熟期にある。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、国内のデフレ圧力により国内価格が低下し、輸入意欲が低下するとの見通しを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 19.1%減の 19.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～8 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 15.6%減の 1,257.2 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 576.5 万トン（45.9%）、ウクライナ 445.5 万トン（35.4%）、米国 203.9 万トン（16.2%）の順。

中国農業農村部「中国農業展望報告（2024-2033）」（2024.4）によれば、2023 年の国産とうもろこしの生産量は 2 億 8,884 万トンと前年から 4.8%増加したことから、2024 年のとうもろこし輸入量は 1,700 万トンと前年（2,713 万トン）から 37.3%減少すると予測。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 8 月号」によると、8 月の国内価格は、2,440 元/トンと、新穀の供給を受けて前月（2,480 元/トン）から小幅に下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 1.0%減の 209.3 百万トンの見込み。

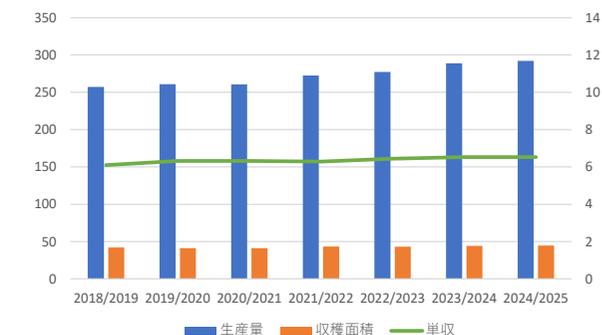
とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	277.2	288.8	292.0 (296.0)	-	1.1
消費量	299.0	307.0	313.0 (316.7)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.5	19.0 (18.0)	▲ 2.0	▲ 19.1
期末在庫量	206.0	211.4	209.3 (177.6)	▲ 2.0	▲ 1.0
期末在庫率	68.9%	68.8%	66.9% (56.1%)	▲ 0.6	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.20)	-	1.1
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.70)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t,百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量:万トン、シェア:%)

2024年 1月～8月			2023年 1月～12月			2022年 1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	576.5	45.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	445.5	35.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	203.9	16.2	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	9.6	0.8	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
南アフリカ共和国	5.6	0.4	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	8.5	0.7	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,257.2	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

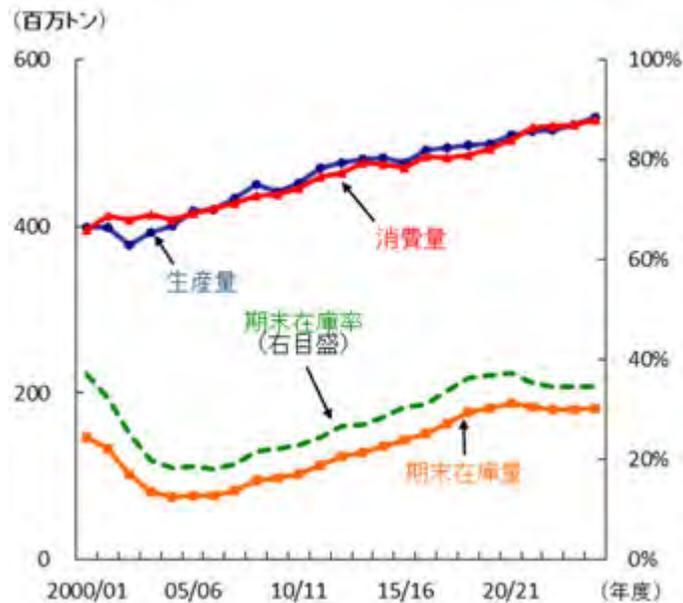
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で下方修正されたものの、ネパール、中国、マレーシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン等で下方修正されたものの、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

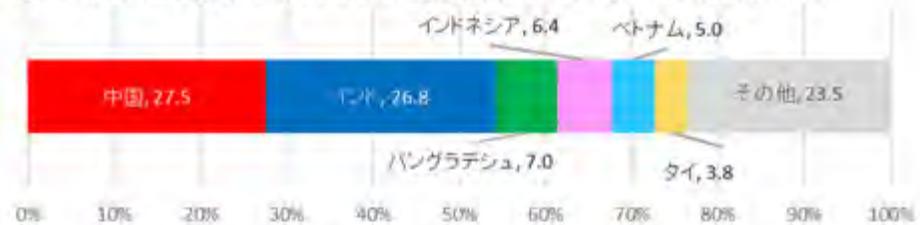
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

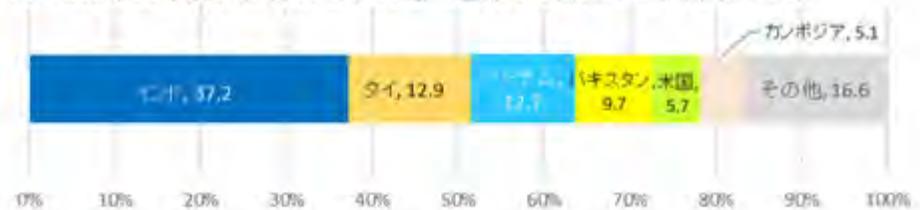
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	516.0	521.5	530.4	3.1	1.7
消 費 量	520.0	521.3	528.1	0.6	1.3
輸 出 量	54.6	54.3	56.5	2.2	4.0
輸 入 量	56.6	51.7	52.9	1.9	2.4
期末在庫量	179.6	179.8	182.2	5.0	1.3
期末在庫率	34.5%	34.5%	34.5%	0.9	0.005

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 October 2024)

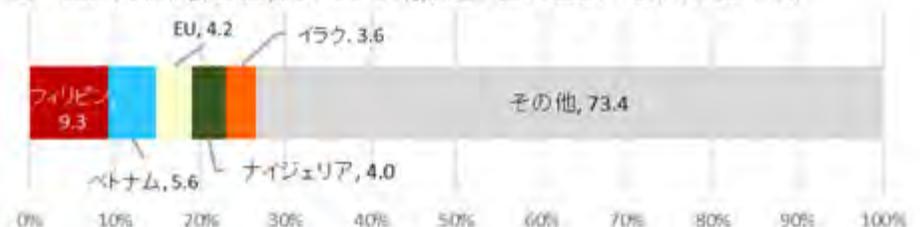
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(530.4百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(56.5百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(52.9百万トン)(単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。雨期にあたる 9 月は、全国的に降雨量が多く、コメの主要生産地である北部、東北部、中部でも例年同様 200 ミリ以上の降雨量があり、収穫面積の増加が見込まれることによる。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」(2024.9)によれば、2024/25 年度の雨季米(2024 年 5 月～10 月作付け)の収穫量は、良好な天候から前年度に比べ 0.8%増加の 27.0 百万トン(粳ベース)の見込み。単収は増加した一方、作付面積は、前年度の 995 万ヘクタールから 994 万ヘクタールにわずかに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。また 2023/24 年度の乾季米の収穫量(2024 年 2 月～10 月収穫)は、作付面積の減少に伴い、前年比 9%減の 6.2 百万トン(粳ベース)と予測。

2024/25 年度は、降雨に恵まれ十分な灌漑用水が確保されるとみられることから前年度に比べ 15%増の 7.2 百万トン(粳ベース)の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、インドの輸出規制撤廃等(コメ-インドの表 インドのコメ輸出規制(P.19)参照)を受け、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 7.3 百万トンと、前年度から 18.0%減少する見込み。

2023/24 年度(2024 年 1 月～12 月)の輸出量は、8 月までの出荷・販売ペースが予想を上回ったことを踏まえ、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 8.9 百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は、前年同期比 24.0%増の 657.0 万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の 80.2 万トンから 35.0%増加し、108.5 万トンと輸出先国の中で最大となった。

コメ-タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5	
消費量	12.5	12.5	12.6 (12.4)	-	0.8	
輸出量	8.7	8.9	7.3 (8.2)	▲ 0.2	▲ 18.0	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-	
期末在庫量	3.9	2.6	2.9 (2.9)	0.1	11.8	
期末在庫率	18.1%	11.9%	14.3% (14.2%)	0.6	2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5	
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-	
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(11 October 2024)、 IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024) (単収は精米t/ha)						

表 タイの国別輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2024年1月～8月)			2022/23年度 (2023年1月～12月)			2021/22年度 (2022年1月～12月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
インドネシア	108.5	16.5	インドネシア	141.1	16.1	イラク	160.0	20.8
イラク	75.4	11.5	南アフリカ	88.5	10.1	南アフリカ	77.5	10.1
米国	53.3	8.1	イラク	85.4	9.7	中国	75.2	9.8
南アフリカ	49.9	7.6	米国	70.6	8.1	米国	65.2	8.5
フィリピン	34.2	5.2	中国	47.2	5.4	日本	31.3	4.1
セネガル	28.7	4.4	フィリピン	42.0	4.8	セネガル	23.2	3.0
その他	307.0	46.7	その他	401.5	45.8	その他	338.6	43.9
計	657.0	100.0	計	876.3	100.0	計	771.0	100.0

資料: タイ関税局 (2024.10)

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、7.0 百万トンと、前年度に比べ 0.7%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」(2024.10.16)によれば、種類別の生産量は、長粒種が 7.6 百万トン(粳ベース)と前年度を 9%上回るものの、中・短粒種は、収穫面積の減少を受け 2.4 百万トン(粳ベース)と前年度を 21%下回る見込み。中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州では、5月初旬の豪雨により作付けが遅延するとともに、この豪雨と価格の低下によりカリフォルニア産米の作付面積が減少することから、生産の減少に繋がると予測されている。

同「Crop Progress」(2024.10.15)によれば、10月13日現在の主要生産6州の収穫進捗率は 91%と、前年同期(86%)及び過去5年平均(86%)を上回っている。南部の生産州では作付けが早かったことから収穫が進展している一方、カリフォルニア州では平年通り9月上旬から収穫が開始された。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」(2024.10.16)によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫及び輸入増を受け、前年度に比べ 2.2%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

同「Grain:World Markets and Trade」(2024.10.11)によれば、インドの非バスマティ米の輸出規制撤廃等を受け、アジアのコメ輸出価格相場は大幅に値下がりをしたが、米国相場は、西半球(南北アメリカ大陸等)における需要増と農家における売り惜しみにより、11ドル高の 750 ドル/トンとなった。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、輸出余力の増加から前年度に比べ 2.9%増加し、2016/17 年度以降で最高となる見込み。

同「Exports Sales Query System」(2024.9)によれば、2023/24 年度(2023年8月～2024年7月)の輸出量は 3.3 百万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン(27.7%)、ハイチ 34.5 万トン(10.5%)、日本 29.6 万トン(9.0%)の順。2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ 16.0%増加し、1.5 百万トンの見込み。

コメー米国

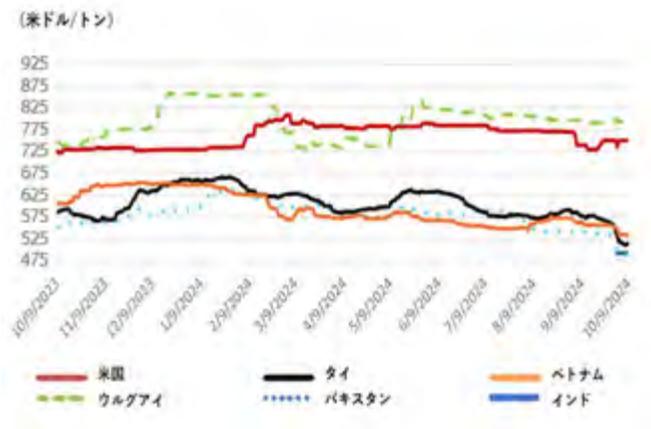
長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.0	-	0.7
消費量	4.6	4.9	5.1	-	2.2
輸出量	2.1	3.1	3.2	-	2.9
輸入量	1.3	1.4	1.5	-	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	-	16.0
期末在庫率	14.4%	15.5%	17.6%	-	2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.51	0.01	▲0.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October, 2024)

図 長粒米の FOB 輸出価格相場：過去 12 ヶ月



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.10.11)より

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。政府の最低支持価格の上昇を受け、収穫面積はわずかに増加する見込み。

全国農業気象月報（2024.10.3）によれば、9月末まで、主産地である東北地区（黒龍江省、吉林省、遼寧省）では、一期作が成熟・収穫期であり、江淮地帯（長江・淮河の間）及び江南地区（江蘇省南部から浙江省北部）では出穂から乳熟期にあり、一部は成熟期に入った。

江南地区及び華南地区（福建省、海南省、広東省）の大部分では二期作の晩稲が出穂から乳熟期に入り、平年に近い状況である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 145.3 百万トン。しかしながら、飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.9%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度比 11.1%増の 1.7 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～8 月の輸入量は 87.8 万トン（前年同期 56.1%減）で、輸入国別では、ミャンマー 27.8 万トン（31.7%）、タイ 23.8 万トン（27.1%）、ベトナム 23.8 万トン（27.1%）の順。

USDAによれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予想されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はないものの、前年度比 14.1%減の 1.4 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消費量	155.0	148.1	145.3 (145.2)	0.2	▲ 1.9
輸出量	1.7	1.6	1.4 (1.6)	-	▲ 14.1
輸入量	4.4	1.5	1.7 (2.1)	0.2	11.1
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (101.7)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.9% (69.3%)	▲ 0.1	2.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.00)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (5.00)	-	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC「Grain Market Report」(19 September 2024) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2004/05～2024/25 年度)



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 40.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加により、前月予測から3.0百万トン上方修正され142.0百万トンと、前年度比で3.0%増加、過去5年平均（129.1百万トン）と比べ10.0%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、主にインド東部におけるモンスーンの降水量が前年を上回り、カリフ米の収穫面積が予想を上回ったことから、前月予測から0.5百万ヘクタール増の49.0百万ヘクタールとなり、前年度に比べ2.4%増加し史上最高となる見込み。

インド政府（2024.9.20）によると、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付けがシフトしており、カリフ米の作付面積は前年度から2%増加し41.35百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測から1.0百万トン下方修正され120.0百万トンであるが、旺盛な国内需要が予測され、前年度比で3.6%増。

国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、前月予測から3.0百万トン上方修正され、前年度比40.0%増の21.0百万トンの見込み。依然として世界第1位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約37.2%を占める。

2023/24年度の輸出量は、前月予測から下方修正され15.0百万トンと、前年度比25.9%減。

インド輸出入統計によれば、2023年10月から2024年7月までの輸出量は12.4百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア119.8万トン（9.6%）、ベナン100.0万トン（8.0%）、ギニア80.8万トン（6.5%）の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。

インドは、2022年9月9日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化してきたが、国内における史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024年9月14日に、2023年8月27日より導入したバスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また、9月27日には、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を20%から10%への引き下げを発表。更に、9月28日には、昨年7月から禁止していた非バスマティ米の輸出禁止措置を撤廃し、最低輸出価格を導入したものの、10月23日に撤廃を発表した。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、9月時点での期末在庫量は、32.31百万トンと前年に比べ38.7%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

（単位：百万精米トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	135.8	137.8	142.0 (139.0)	3.0	3.0
消費量	114.5	115.8	120.0 (118.5)	▲1.0	3.6
輸 出 量	20.3	15.0	21.0 (17.3)	3.0	40.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	42.0	43.0 (43.3)	4.0	2.4
期末在庫率	26.0%	32.1%	30.5% (31.9%)	2.4	▲1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	49.00 (48.50)	0.50	2.4
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.87)	0.05	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC「Grain Market Report」(19 September 2024)（単収は精米t/ha）

表 インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%) → 10%	2024.9.27～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%) → 10%	2024.9.27～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t) 最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ド ル/トンに引き下げ (2023.10.26～)) →最低輸出価格の撤廃	(法定税率) 2024. 9.14～
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%) → 10%	2024.9.27～
バスマティ米・パーボイ ルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止 → 輸出撤廃	2024.9.28～ (最低輸出価格も 10.23に撤廃)
砕米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5% 減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.5% 下回る見込み。2016/17 年以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にある。2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく 26.6 百万トンと前年度に比べ 0.5 百万トン減少する見込み。

ベトナム農業農村開発省（MARD）によれば、9 月 7 日に台風 11 号「ヤギ」がベトナム北部に上陸し、その後も長期間にわたり大雨をもたらした。この影響で、洪水等による被害が発生し、生産量は前年より減少すると予測されている。紅河デルタ地域（北部）では、夏秋作（雨季米）は幼穂形成期から登熟期に達している。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.10）によると、紅河デルタ地域（北部）では、台風 11 号「ヤギ」と台風 15 号「ソーリック」が 20 万ヘクタール以上に影響を与え、そのうちの 7.5 万ヘクタールが大きな被害を受けた。メコンデルタ地域（南部）では、夏秋作（雨季米）の収穫作業が終盤を迎えており、単収は 5.89 トン/ヘクタールと前年と同程度と予測されている。

【貿易情報・その他】USDA 「Rice Outlook」（2024.10.16）によれば、2024/25 年度の輸出量は、世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等したことによる、同国との競争激化が予想されることから、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、7.2 百万トンと、前年度に比べ 16.3% 減少する見込み。ベトナム食品協会（VFA）（2024.9.5）によれば、ベトナム産 5% 破碎米の輸出価格は、タイやパキスタンなどの主要輸出国を上回っている。

同「Rice Outlook」（2024.10.16）によれば、ベトナム産 5% 破碎米（夏秋産）の価格相場は、9 月 28 日のインドの非バスマティ米の輸出規制撤廃等を受け、9 月 24 日に終わる週から 30 ドル下落し、10 月 8 日の週に 550 ドル/トンと、2023 年 7 月以来の安値となった。

ベトナム関税総局によれば、2024 年 1～9 月の輸出量は 695.8 万トンと、前年同期（641.9 万トン）に比べ 8.4% 増加。主な輸出先国は、フィリピン 322.4 万トン（46.3%）、インドネシア 103.3 万トン（14.8%）、マレーシア 62.7 万トン（9.0%）、ガーナ 42.6 万トン（6.1%）の順。

コメベトナム

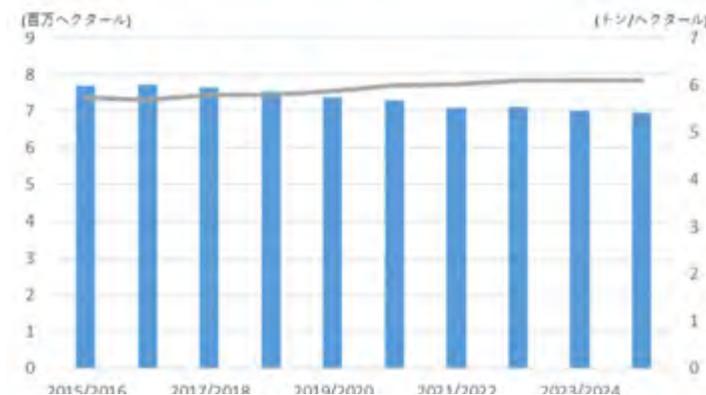
北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	26.6	26.5 (28.6)	-	▲ 0.5
消費量	21.9	22.0	22.1 (22.4)	0.1	0.5
輸出量	8.2	8.6	7.2 (7.8)	▲ 0.2	▲ 16.3
輸入量	2.8	2.9	3.0 (2.2)	-	1.7
期末在庫量	2.6	1.6	1.7 (3.3)	0.1	9.7
期末在庫率	8.7%	5.1%	5.8% (10.8%)	0.4	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.12	7.00	6.95 (7.20)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	6.10	6.09	6.10 (3.97)	-	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 October 2024)、
IGC 「Grain Market Report」 (19 September 2024) (単収は精米t/ha)

図 ベトナムの収穫面積・単収の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2024. 10. 11) をもとに農林水産省にて作成

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 前月比

- ・EUで上方修正されたものの、ウクライナ、米国等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

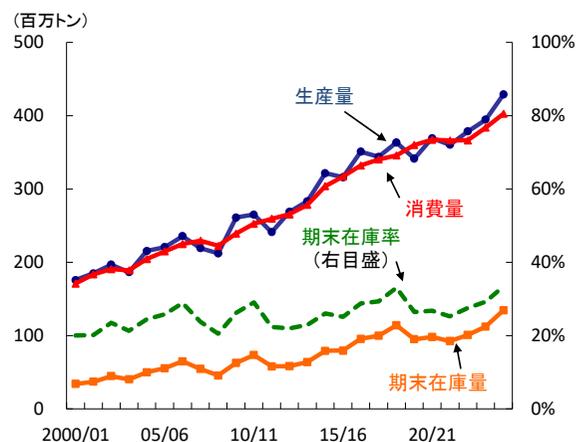
消費量 前年度比 前月比

- ・中国等で上方修正されたものの、タイ、米国等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・ウクライナで下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

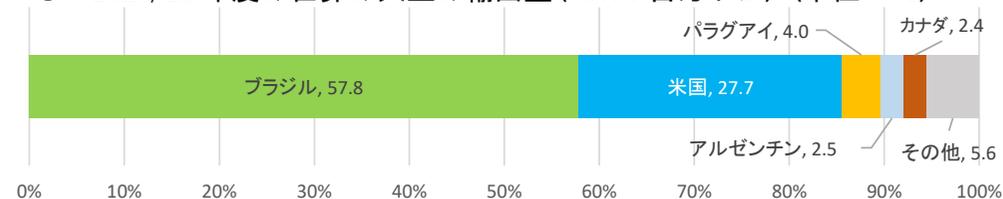
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.7	394.7	428.9	▲ 0.3	8.7
消費量	366.4	383.8	402.7	▲ 0.3	4.9
うち搾油用	315.3	330.4	346.4	▲ 0.3	4.8
輸出量	171.8	176.9	181.5	▲ 0.1	2.6
輸入量	167.8	177.4	177.6	▲ 0.1	0.1
期末在庫量	100.9	112.4	134.7	0.1	19.8
期末在庫率	27.5%	29.3%	33.4%	0.04	4.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 October 2024)

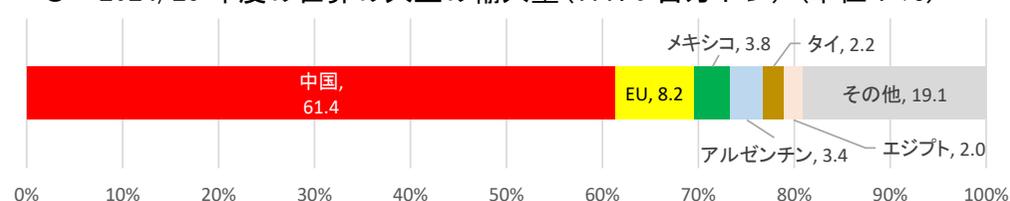
○ 2024/25年度の世界の大豆の生産量(428.9百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸出量(181.5百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸入量(177.6百万トン)(単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、単収の引下げを受け、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 10.1%増の 124.7 百万トンと史上最高の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA 「Crop Progress」(2024.10.7 及び 10.15) によれば、10 月 6 日現在、作柄評価が「良～やや良」の比率は 63%と、乾燥の影響を受けた前年同期 (51%) を上回っている。10 月 13 日現在、主要生産 18 州における落葉進捗率は 95%と、前年同期 (96%) を下回ったものの、過去 5 年平均 (92%) を上回っている。収穫進捗率は 67%と、前年同期 (57%)、過去 5 年平均 (51%) を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用以外の消費量がわずかに引下げられたことを受けて前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、バイオ燃料等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 5.4%増の 69.1 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 9.1%増の 50.4 百万トンの見込み。

「OIL WORLD Monthly」(2024.10.18)によれば、2024/25 年度、パーム油等の油糧種子の減産による価格上昇に伴い、相対的に安価な大豆の需要が高まっている。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.10.11) によれば、米国大豆価格は、10 月 9 日現在、前月並みの 417 ドル/トンと、乾燥が懸念される南米のブラジル産 (434 ドル/トン) 及びアルゼンチン産 (420 ドル/トン) を下回っている。なお、USDA によれば、2024 年 9 月の輸出量は 290 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 231 万トンより 26%増。内訳は中国 100 万トン (34.6%)、メキシコ 36 万トン (12.3%)、ドイツ 9 万トン (9.2%) の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 60.8%増の 15.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 12.5%と、過去 5 年平均 (8.0%) を上回り、2019/20 年度以来 5 年ぶりに 10%台まで回復する見通し。

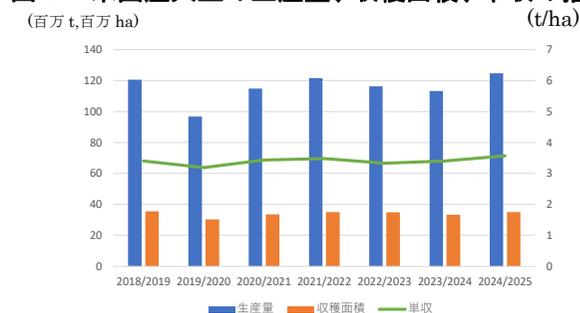
大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	116.2	113.3	124.7	▲ 0.1	10.1
消費量	63.3	65.6	69.1	▲ 0.1	5.4
うち搾油用	60.2	62.2	66.0	-	6.0
輸 出 量	53.9	46.1	50.4	-	9.1
輸 入 量	0.7	0.6	0.4	-	▲ 28.1
期末在庫量	7.2	9.3	15.0	-	60.8
期末在庫率	6.1%	8.3%	12.5%	0.01	4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.91	-	4.9
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.57	▲ 0.01	5.0

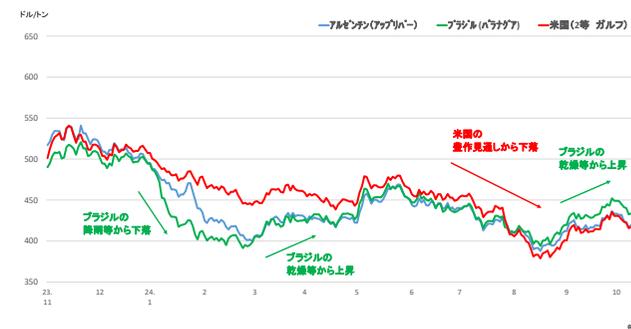
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)

図1 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推



資料: USDA 「PS&D」(2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

図2 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告 (2024.10.15) によれば、2024/25 年度の生産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受けて前年度より 12.7%増の 166.1 百万トンの見通し。10 月 6 日時点の作付進捗率は 4.2%と、9 月下旬の高温乾燥による降雨の遅れを受けて、前年同期の 10.1%を下回っている。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」 (2024.10.16) によれば、10 月 11 日現在、主要生産州のマット・グロッソ州において、作付進捗率は 9%と、前年同期 (35%)、過去 5 年平均 (24%) を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度から搾油用需要が減少することを受けて前年度より 0.8%減の 58.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 0.8%増の 105.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～9 月の輸出量は 89.5 百万トンで、前年同期 (87.2 百万トン) に比べ 2.6%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 65.5 百万トン (73.1%)、スペイン 3.9 百万トン (4.4%)、タイ 2.6 百万トン (2.9%) の順。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

報道情報によれば、9 月中旬現在、南米のアマゾン川流域では、降雨不足と干ばつにより河川の水位が記録的な水準に低下し、一部では輸出向け穀物を運ぶはしけの航行に支障をきたしている。

ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されつつある一方で、アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているため、アマゾン川の水位低下が穀物輸出へ及ぼす影響を注視する必要がある。

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

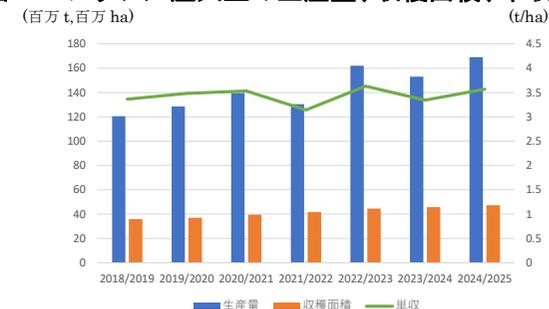
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	162.0	153.0	169.0 (166.1)	-	10.5
消費量	57.2	58.6	58.1 (60.2)	-	▲ 0.8
うち搾油用	53.4	54.7	54.0 -	-	▲ 1.3
輸出量	95.5	104.2	105.0 (105.5)	-	0.8
輸入量	0.2	0.9	0.2 (0.5)	-	▲ 82.8
期末在庫量	36.8	28.0	34.0 (4.2)	0.1	21.6
期末在庫率	24.1%	17.2%	20.9% (2.5%)	0.06	3.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.60	45.80	47.30 (47.33)	-	3.3
単収(t/ha)	3.63	3.34	3.57 (3.51)	-	6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 October 2024)
CONAB 「Graos」 (15 October 2024)

図 1 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

図 2 ブラジルのクロープカレンダー (中部から南部)

2024/25年度の大豆の作付けは、2024年9月以降、順次開始。
2025年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2024/25年度	2024年				2025年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・ノース州等)	作付 3.8(百万ha)				収穫 22.7(百万t)				収穫夏冬作計 119.7百万t				
冬とうもろこし (マット・グロッソ州、パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.0百万ha				作付 17.2(百万ha)				収穫 97.0(百万t)				
大豆 (マット・グロッソ州、パラナ州等)	作付 47.3(百万ha)				収穫 166.1(百万t)								

大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け

資料: CONAB 「Graos」 (2024.10.15) をもとに農林水産省にて作成

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前年度から 3.1%増加する見込み (AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.10.21)によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度 (7.0 百万トン) から 3.1%増の 7.2 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕の需要と輸出は堅調であり、生産量は微増するとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。なお、USDA によれば、10 月上旬、温暖な天候が広がり、作物の成熟に好影響を与えている。

カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates , August 2024」(2024.9.16)によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の生産量は、前年度に比べ 6.9%増の 4.3 百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加することが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では前年度より減産する一方、ケベック州では前年度より増産する見込み。

主要生産州の各州報告によれば、オンタリオ州では、10 月上旬現在、概ね完熟期を迎えており、収穫進捗率は、州内の地域により異なるが、60%以上で、収穫が完了した地域もある。マニトバ州では、10 月上旬、収穫進捗率は 70%と前年同期 (69%) より進んでいる。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要の増加により前年度 (2.2 百万トン) から 10.5%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、供給増を受けて前年度 (4.9 百万トン) より 6.1%増の 5.2 百万トンと史上 2 番目の高水準となる見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2023/24 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月) の輸出量は 347.5 万トンで、前年同期 (311.6 万トン) を上回っている。国別では、中国 143.9 万トン (41.4%)、アルジェリア 62.6 万トン (18.0%)、イラン 54.6 万トン (15.7%)、オランダ 18.5 万トン (5.3%) の順となっている。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の消費量の引下げを受けて前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度並みの 0.6 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

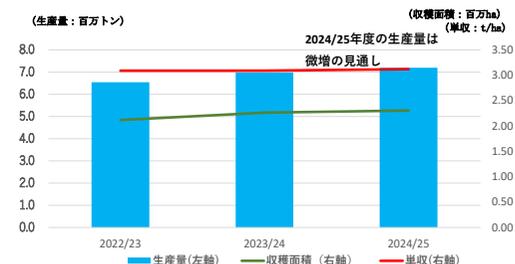
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.5	7.0	7.2 (7.2)	-	3.1
消費量	2.7	2.5	2.9 (2.5)	-	12.3
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	2.6
輸出量	4.2	4.8	4.3 (5.2)	-	▲ 11.3
輸入量	0.5	0.3	0.4 (0.5)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.3	0.7 (0.6)	-	132.0
期末在庫率	5.3%	4.1%	9.8% (7.2%)	-	5.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.30 (2.31)	-	1.8
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.13 (3.12)	-	1.3

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(21 October 2024)

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.10.21)をもとに農林水産省にて作成

表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量：万t、シェア：%)

2024年 8 月			2023/24年度 (2023年 8 月～2024年 7 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
アルジェリア	4.4	66.7	中国	143.9	41.4
米国	1.2	18.2	アルジェリア	62.6	18.0
ベルギー	0.9	13.6	イラン	54.6	15.7
			オランダ	18.5	5.3
			その他	68.0	19.6
計	6.6	100.0	計	347.5	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

全国農業気象月報（2024.10.3）によれば、9 月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、大豆の登熟や成熟に適しているとみられる。9 月末、主産地の黒龍江省では成熟期を迎えている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

USDAによれば、2023/24 年度の輸入量は、直近の貿易データを受けて、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度より 7.2%増の 112.0 百万トンとなる見込み。なお、中国海関統計によれば、2024 年 1～8 月の輸入量は、前年同期より 2.8%増の 7,048.1 万トン。内訳は、ブラジル 5,379.5 万トン（76.3%）、米国 1,283.5 万トン（18.2%）、アルゼンチン 162.0 万トン（2.3%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 8 月号」によると、8 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（3,900 元/トン）から小幅に下落し、3,760 元/トン。8 月の国内価格は、4,880 元/トンと前月（4,900 元/トン）から小幅に下落したものの、前年度の大豆が備蓄から販売され、価格は安定している。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の輸入量の引上げにより前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.2%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 0.7 ポイント増の 36.2%となる見込み。

大豆－中国

(単位：百万トン)

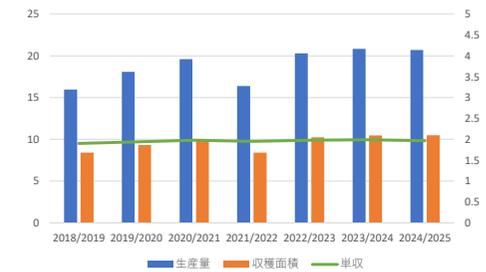
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.1)	-	▲ 0.7
消費量	117.5	121.8	126.9 (127.8)	0.1	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.8)	-	4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
輸 入 量	104.5	112.0	109.0 (108.0)	-	▲ 2.7
期末在庫量	32.3	43.3	46.0 (44.9)	0.3	6.2
期末在庫率	27.5%	35.5%	36.2% (35.1%)	0.2	0.7

(参考)

	2022/23	2023/24	2024/25 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50 (8.40)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.95)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC「Grain Market Report」(19 September 2024)

図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t,百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省で作成

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2024年 1月～8月			2023年 1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	5,379.5	76.3	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1,283.5	18.2	米国	2,374.3	24.0
アルゼンチン	162.0	2.3	アルゼンチン	199.2	2.0
カナダ	99.5	1.4	カナダ	146.6	1.5
ロシア	50.3	0.7	ロシア	129.3	1.3
ウルグアイ	45.4	0.6	南アフリカ	14.7	0.1
その他	27.8	0.5	その他	38.6	0.4
計	7,048.1	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しを受けて、前年度から 6.0%増の 51.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、干ばつとなった前年度より 92.4%増の 48.1 百万トンの見込み。1 月から 2 月初旬にかけて高温乾燥型の天候が続いたものの、その後の降雨により作柄が改善した。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.7.3）によれば、7 月 3 日現在、大豆の収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 10.8%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 18.9%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.8%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1～8 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 405.9 万トンで前年同期（90.7 万トン）の約 4 倍。輸出先は、中国 365.3 万トン（90.0%）、米国 9.8 万トン（2.4%）、チリ 4.0 万トン（1.0%）の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル=350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル=800 ペソにした。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

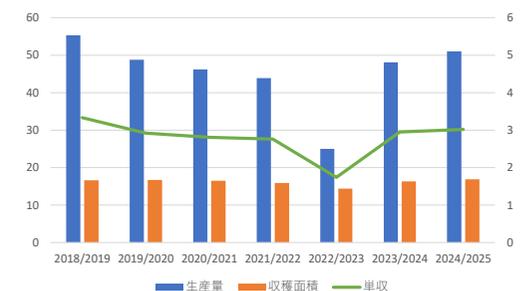
「OIL WORLD Weekly」（2024.8.23）によれば、アルゼンチンのとうもろこし及び大豆の主要輸送経路であるパラナ川の水位が低下しており、主要輸出港ロサリオ港への河川輸送に問題が生じている。

大豆－アルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの差	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	48.1	51.0 (51.5)	-	6.0
消費量	36.6	43.0	47.6 (48.8)	-	10.8
うち搾油用	30.3	35.7	40.0 (42.3)	-	12.0
輸 出 量	4.2	5.1	4.5 (5.7)	-	▲ 11.8
輸 入 量	9.1	7.4	6.0 (5.3)	-	▲ 18.9
期末在庫量	17.0	24.5	29.4 (11.5)	0.1	20.0
期末在庫率	41.7%	50.9%	56.3% (21.1%)	0.2	5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.40	16.30	16.90 (15.87)	-	3.7
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.02 (3.25)	-	2.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図 アルゼンチン産大豆の実産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA 「PS&D」(2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

表 アルゼンチンの大豆輸出量と輸出先国

(単位：万 t)

2024年 8 月		2024年 1 月～8 月	
国名	輸出量	国名	輸出量
中国	41.6	中国	365.3
米国	5.4	米国	9.8
ペルー	2.1	チリ	4.0
チリ	0.2	ペルー	2.1
その他	3.1	その他	24.7
計	52.2	計	405.9

資料：アルゼンチン国家統計局 (INDEC) をもとに農林水産省にて作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

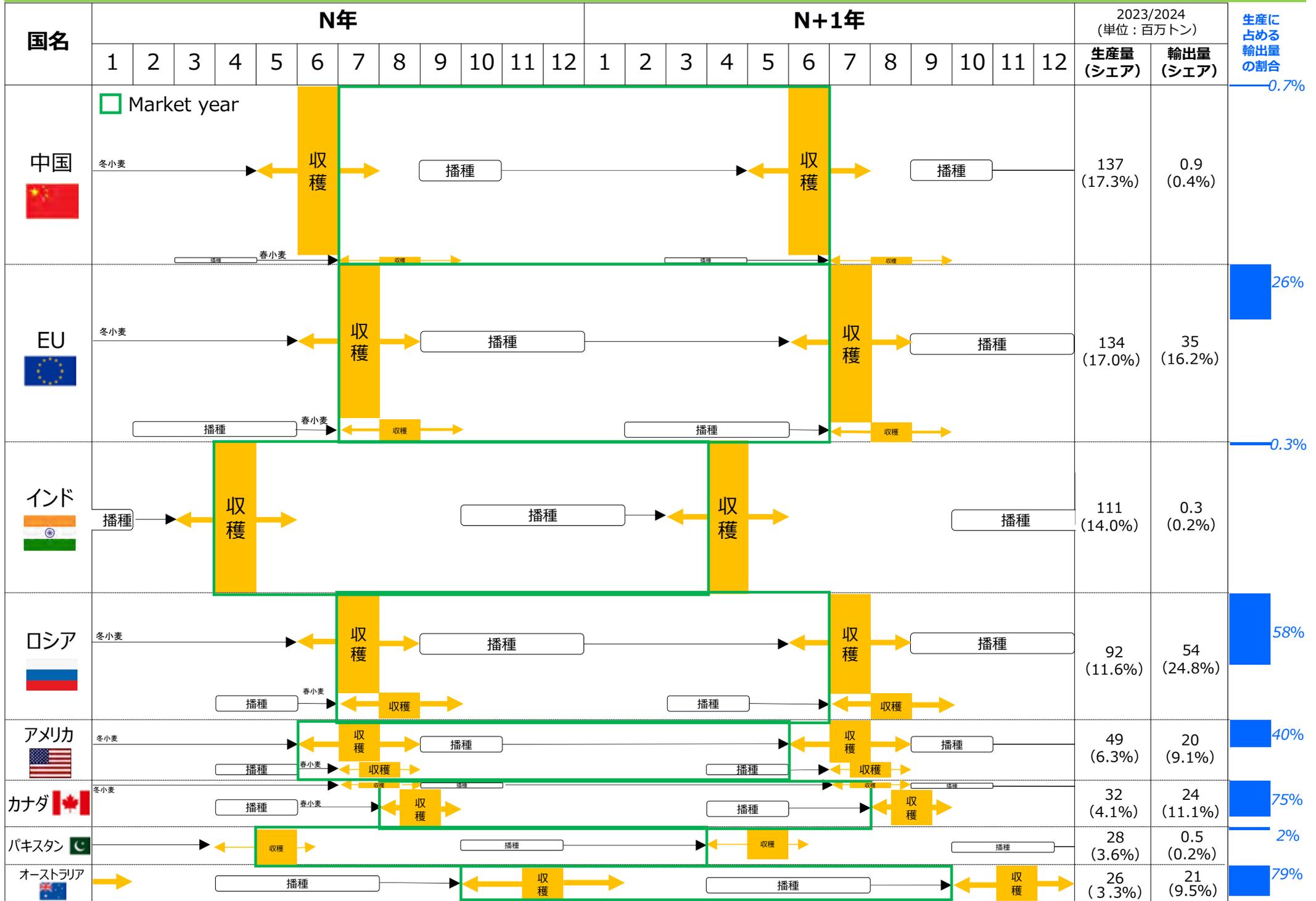
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			
---	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



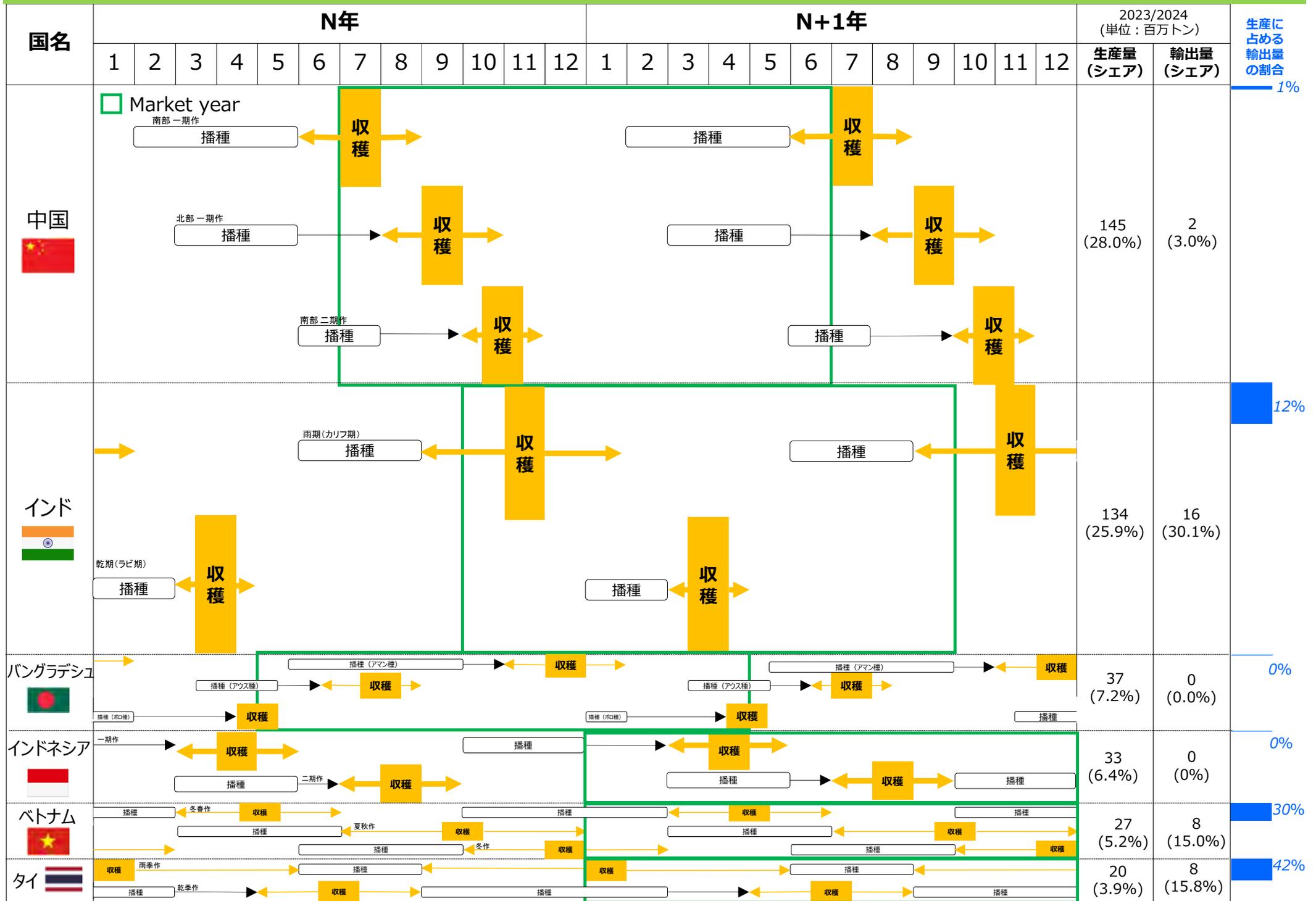
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5)

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 :

主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

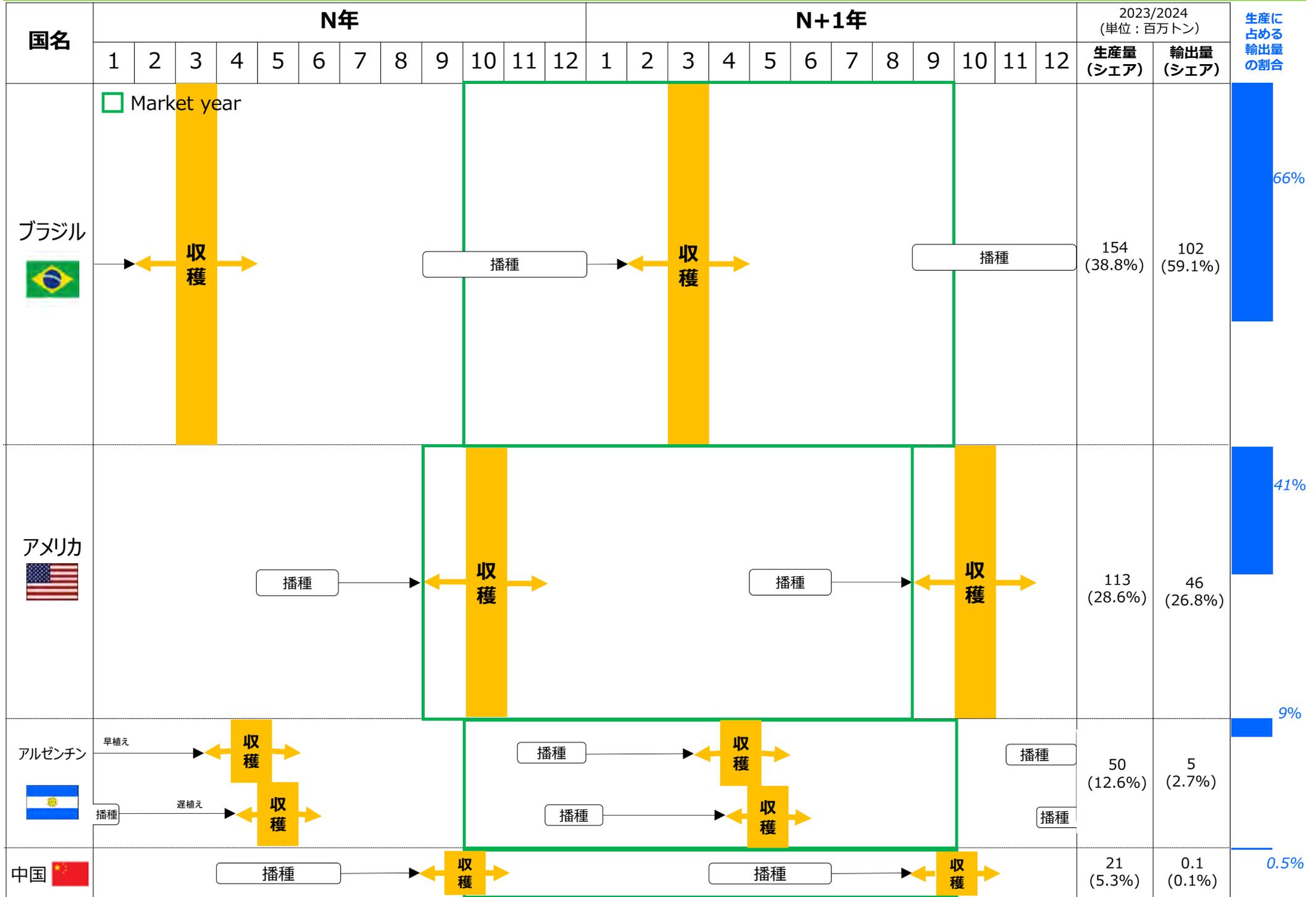
国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位:百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> 播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%												
中国 	播種 → 春作 → 収穫 播種 → 夏作 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%												
ブラジル 	夏とうもろこし → 収穫 播種 → 冬とうもろこし → 収穫 播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%												
EU 	播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 	播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫 雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%												

資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他 : 276 (22.5%) 50 (25.2%)

主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他 :

59
(14.8%) 20
(11.3%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種					収穫	播種					20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%						
カナダ 						播種	収穫					播種	収穫					19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%							
中国 	収穫						播種	収穫					播種					15 (17.4%)	0 (0%)	0%							
インド 	収穫						播種	収穫					播種					13 (14.1%)	0 (0%)	0%							
オーストラリア 						播種	収穫					播種	収穫					6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%							
ウクライナ 	収穫		播種					播種	収穫					播種	収穫	播種					4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%				
ロシア 						播種	収穫					播種	収穫					4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%							

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/ampo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報（ALICの情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2024年10月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度2024/25年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p>連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)</p>
--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

